

2024年3月期 決算説明会



2024/5/17

株式会社ニッスイ



TABLE OF

CONTENTS

01

2024年3月期 決算概況

P 3～17

02

今後の見通し・取組み

P18～42

03

サステナビリティの取組み

P43～46

04

次期中計に向けて

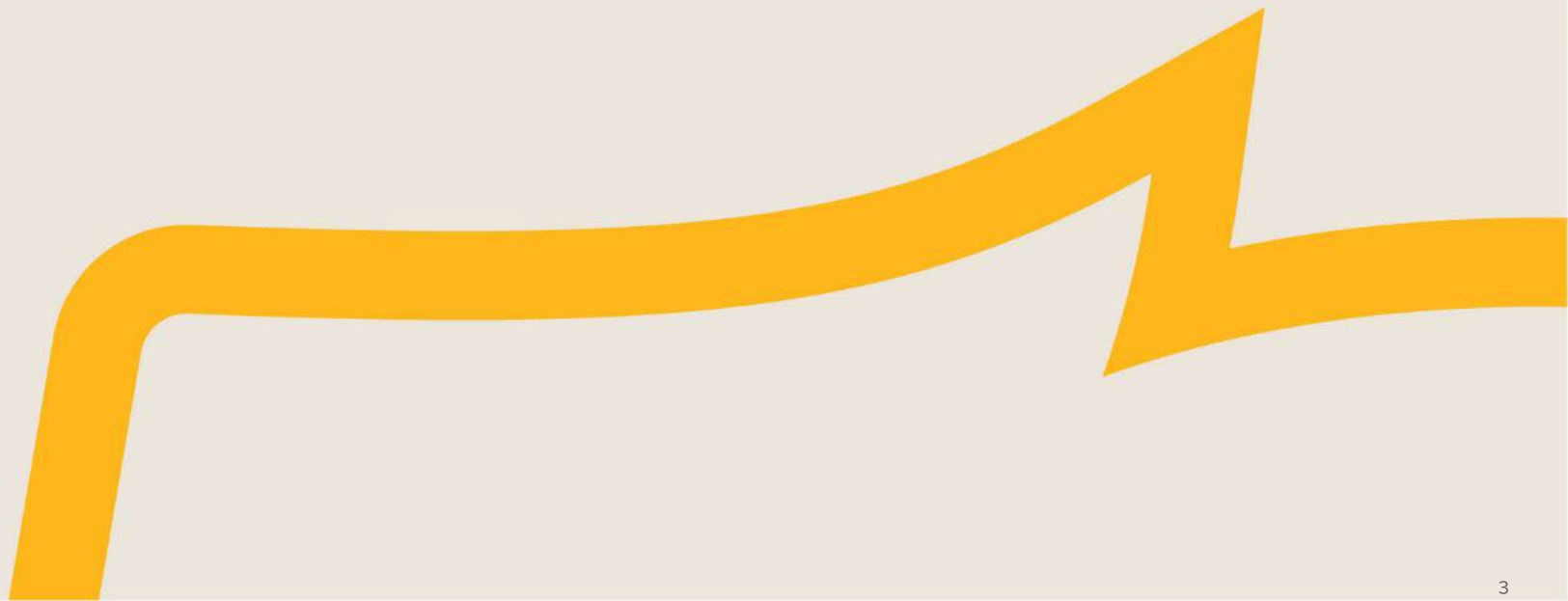
P47～54

05

参考資料

P55～62

2024年3月期 決算概況

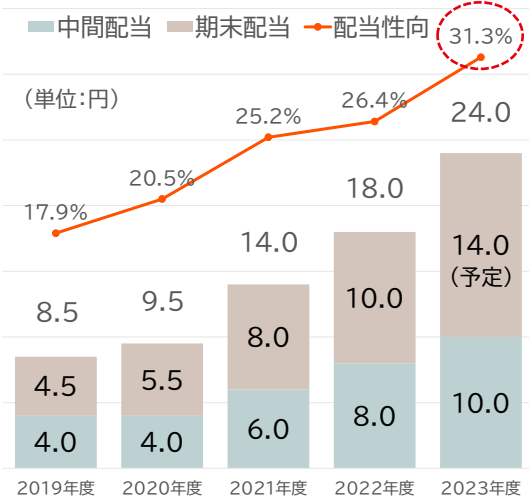


2024年3月期 サマリー

- ・売上高8%増収、営業利益21%増益でいずれも過去最高を更新。当期純利益も12%増益となり3期連続で最高益を更新。
- ・期末配当は14円で5期連続の増配、年間では24円(前期比6円増)。

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	対前期比 増減	増減率(%)
売上高	7,681 億円	8,313 億円	631 億円	8.2
営業利益	244 億円	296 億円	51 億円	21.1
経常利益	277 億円	319 億円	41 億円	15.1
当期 純利益	212 億円	238 億円	26 億円	12.3
ROIC	5.2 %	5.3 %	0.1 %	

2024年3月期 計画 (2月発表)	進捗率 (%)
8,250 億円	100.8
290 億円	102.3
310 億円	103.1
235 億円	101.5
5.1 %	



2024年3月期 セグメント別概況

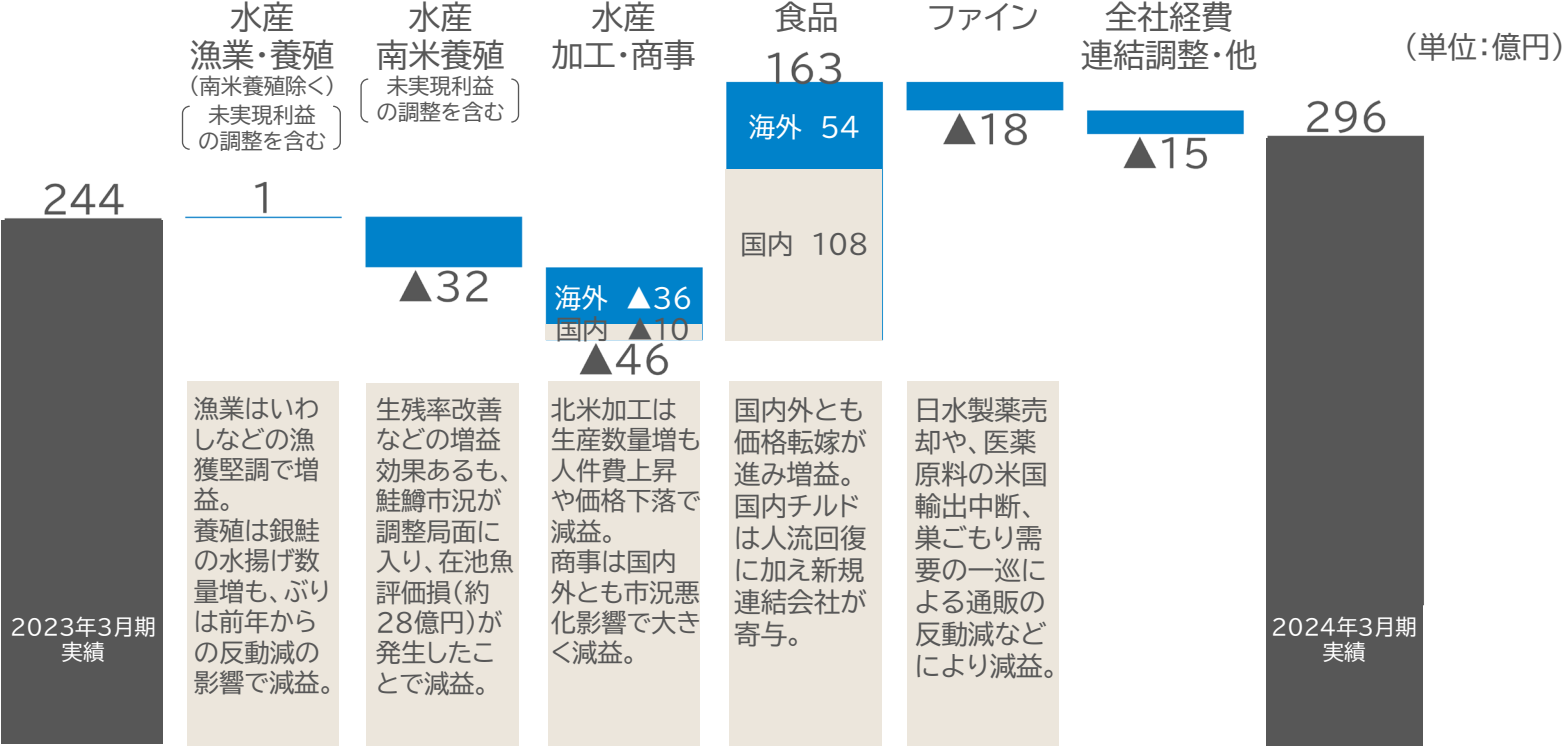
水産は市況下落あるも円安で増収。食品は国内外で業務用が回復したことに加え、円安や値上げ効果もあり大幅増収。ファインケミカルは日水製薬売却の影響により減収。

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	率(%)
売上高	7,681	8,313	631	8.2
水産事業	3,283	3,368	85	2.6
食品事業	3,820	4,432	612	16.0
ファインケミカル事業	251	156	▲94	▲37.5
物流事業	154	152	▲2	▲1.8
その他	171	202	30	17.9
営業利益	244	296	51	21.1
水産事業	185	106	▲78	▲42.4
食品事業	114	272	158	138.8
ファインケミカル事業	17	▲1	▲18	—
物流事業	15	15	▲0	▲3.6
その他	7	7	▲0	3.0
全社経費	▲95	▲104	▲8	9.1
経常利益	277	319	41	15.1
親会社株主に帰属する当期純利益	212	238	26	12.3

<売上高為替影響額>
+ 約300億円

2024年3月期 主な営業利益増減要因(前期比)

食品は国内外とも価格転嫁が実現し大幅な増益で他の事業をカバー。国内漁獲が堅調なうえ国内銀鮭養殖拡大が寄与するも、市況が調整局面に入ったことで国内外とも水産は減益。



2024年3月期 連結貸借対照表(前期末比)

■ 運転資本増加に加え、CVS向けベンダー会社の新規連結もあり総資産が増加。
自己資本比率は40%超え。

(単位:億円)

()内の数字は前期末比増減			流動負債 2,128 (+140)		
流動資産 3,251 (+208)			支払手形及び買掛金 566 (+64)		
現金及び預金 166 (+62)			短期借入金 966 (▲39)		
受取手形及び売掛金 1,082 (+126)			未払費用 336 (+77)		
棚卸資産(在庫) 1,840 (+81)			固定負債 1,362 (+66)		
固定資産 2,812 (+365)			長期借入金 1,097 (+48)		
有形固定資産 1,663 (+172)			純資産 2,573 (+366)		
無形固定資産 173 (+32)			自己資本 2,491 (+323)		
投資その他の資産 975 (+159)			自己資本比率		
総資産 6,063 (+573)			'23/3 39.5% ⇒ '24/3 41.1%		

2024年3月期 連結キャッシュフロー(前期比)

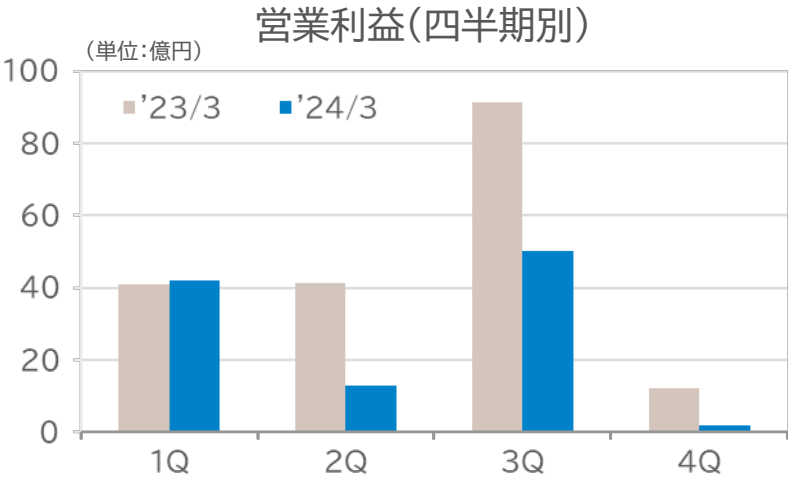
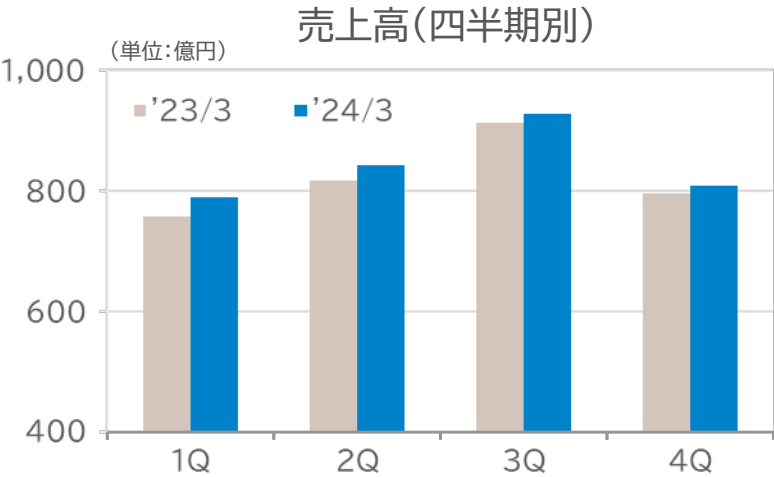
在庫コントロールにより営業キャッシュフローが大幅改善。

(単位: 億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	増減
・税金等調整前当期純利益	292	348	55
・減価償却費(のれん償却含む)	207	228	21
・運転資本	▲ 355	35	390
・法人税等の支払額	▲ 124	▲ 47	77
・その他	13	▲ 20	▲ 33
営業活動によるCF	33	544	510
・設備投資額(固定資産取得額)	▲ 227	▲ 262	▲ 34
・その他	2	▲ 115	▲ 117
投資活動によるCF	▲ 225	▲ 377	▲ 151
・短期借入金の増減額	163	▲ 84	▲ 248
・長期借入金の増減額	71	25	▲ 45
・その他	▲ 60	▲ 64	▲ 5
財務活動によるCF	174	▲ 123	▲ 298
現金及び現金同等物の期末残高	142	195	

2024年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)

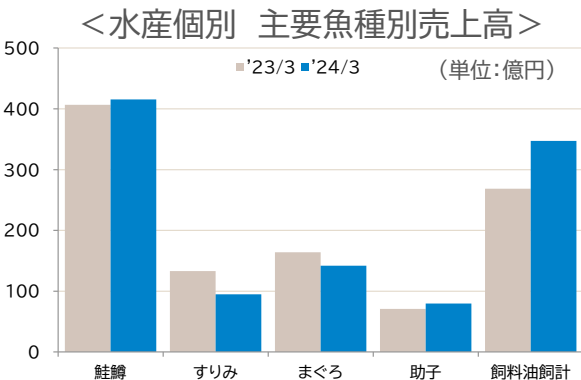
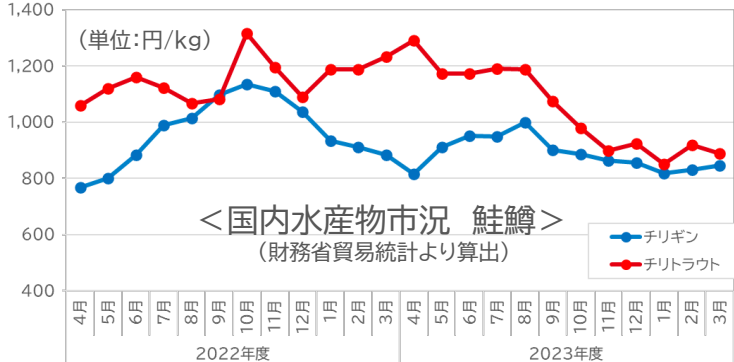
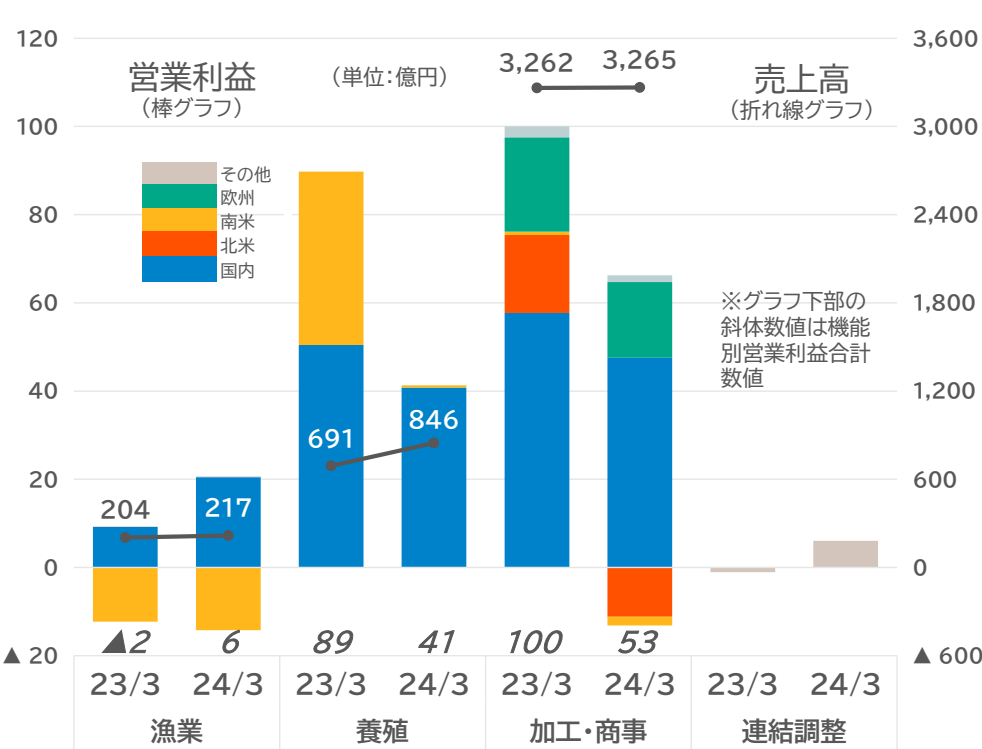
市況が調整局面に入ったことから不採算在庫の早期処分販売等を進めたが、南米養殖と北米加工で市況下落の影響が大きく、為替影響で増収ながらも大幅減益。

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,283	3,368	85	2.6
営業利益	185	106	▲78	▲42.4



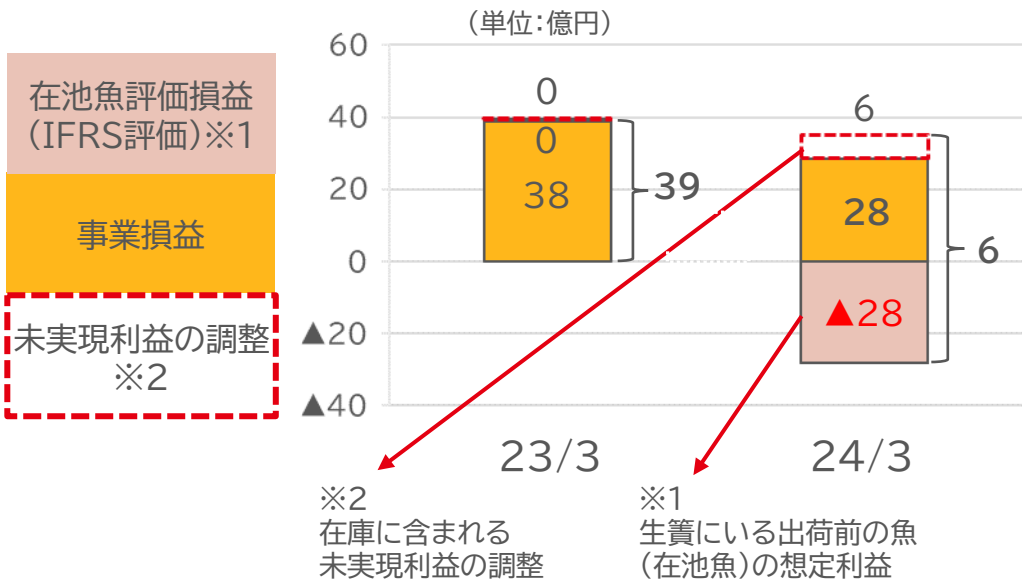
2024年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)

- 国内養殖は養殖成績の改善が進むも、ぶりが前年の反動減の影響を受け減益。
- 南米養殖や北米加工、商事事業は市況下落の影響を大きく受け苦戦。

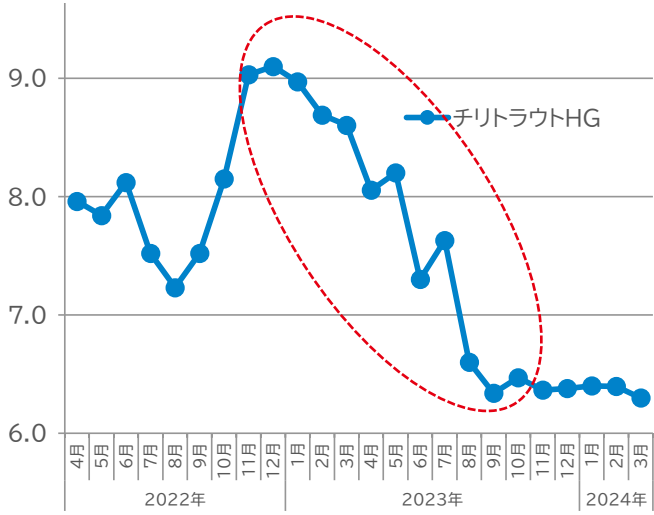




鮭鱒市況が調整局面に入ったことで在池魚評価損が膨らみ減益。



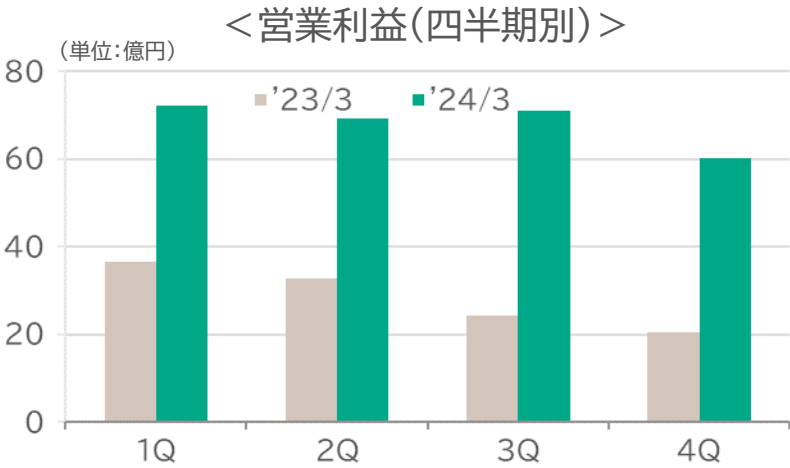
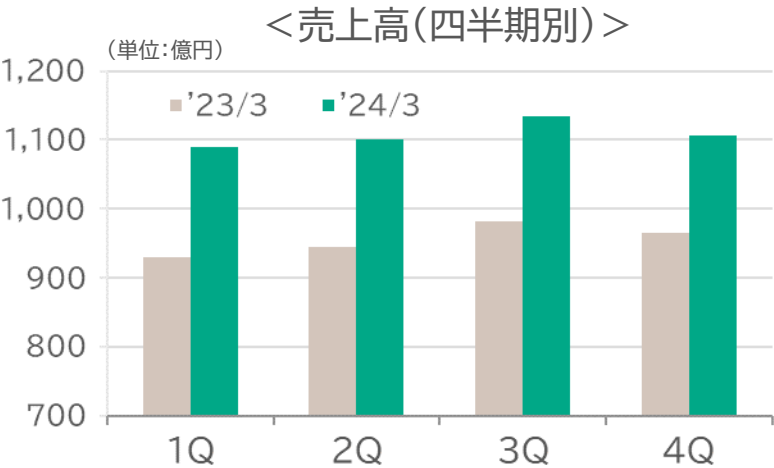
<チリ産トラウトHG相場推移>
(単位:USD/kg)



(出典:InfoTrade) (HG:頭と内臓を除去した状態の魚)

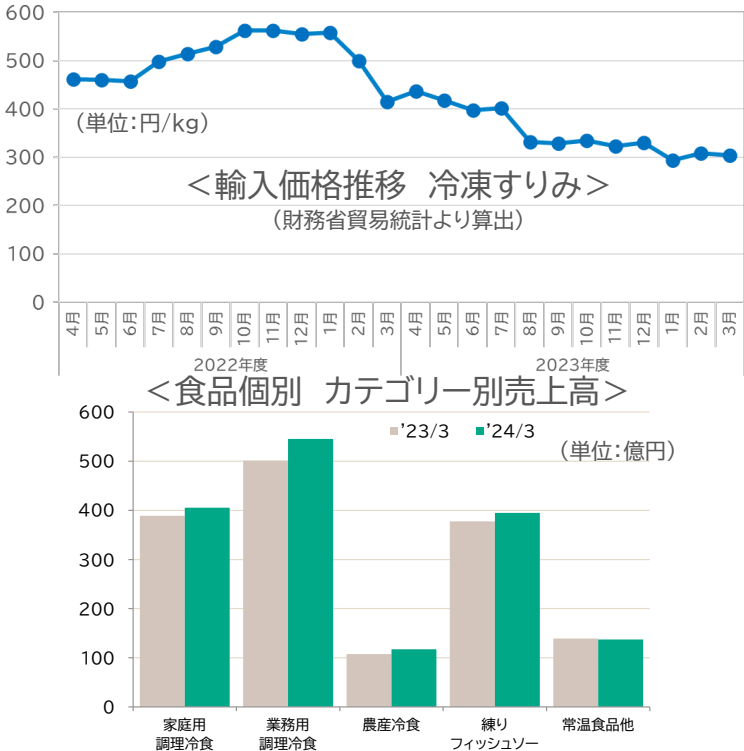
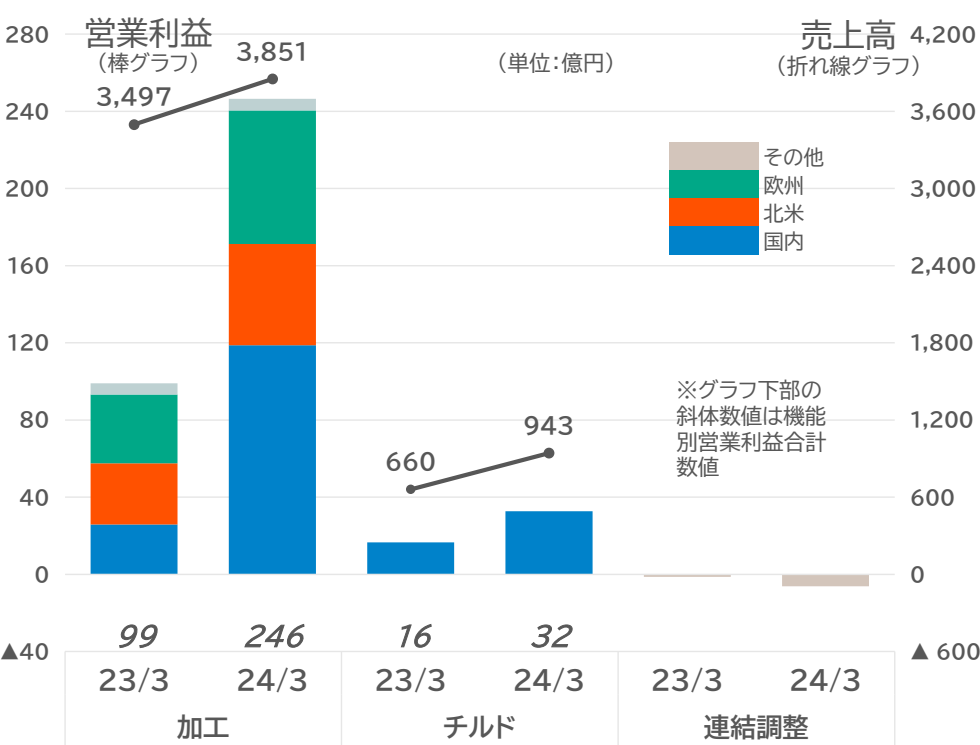
国内外とも販売数量の減少は見られるものの、大幅増収増益。

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,820	4,432	612	16.0
営業利益	114	272	158	138.8



2024年3月期 食品事業 売上高・営業利益(前期比)

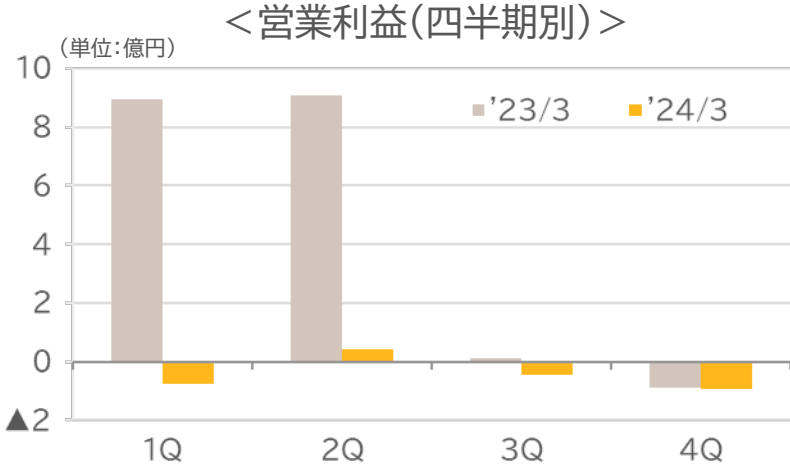
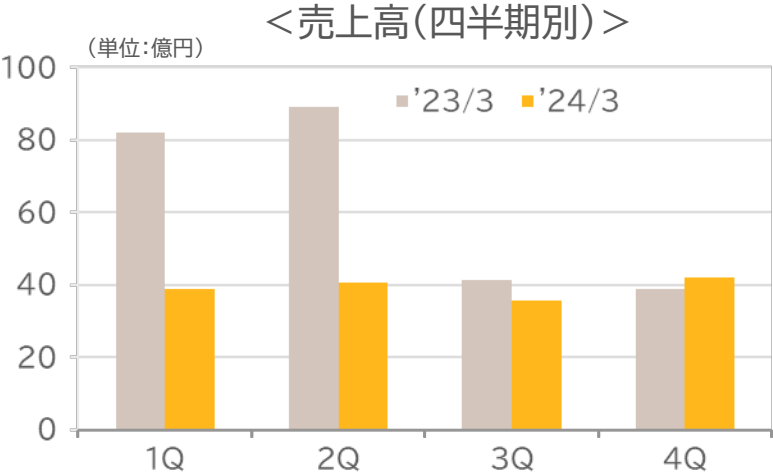
国内外とも人流回復により外食など業務用が好調なうえ値上げ効果も継続、原料価格低下効果も出始め増益。チルドはCVS向けおにぎりなどが順調なうえ新会社の連結効果もあり増益。



2024年3月期 ファインケミカル事業 売上高・営業利益(前期比)

■ 日水製薬売却(2022年9月)による影響、医薬原料の米国向け輸出中断に加え、巣ごもり需要の一巡による通販の反動減などにより減収減益。

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	251	156	▲ 94	▲ 37.5
営業利益	17	▲ 1	▲ 18	—



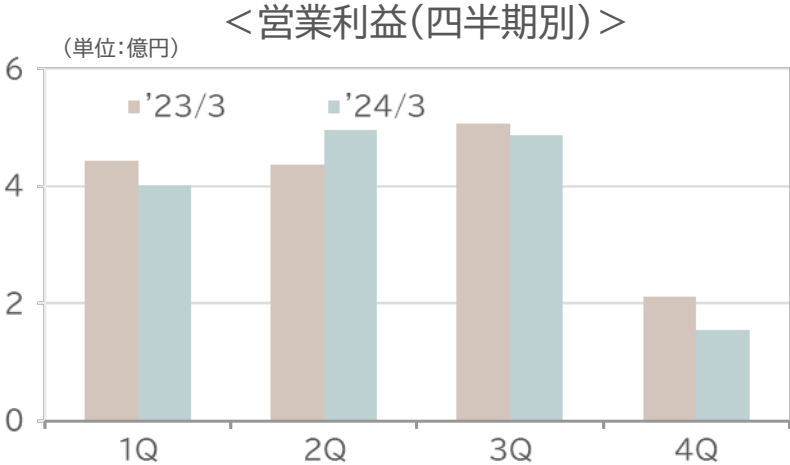
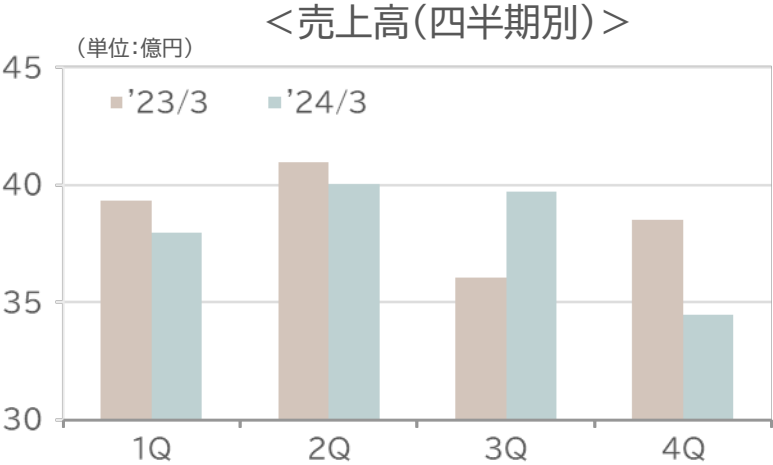
2023年度は、期待を込めた計画としたが、海外出荷遅れが大きく影響した

23年の取り組み	実際	結果
医薬品原料の 欧州向け輸出	原料に求める分析方法が厳格化 申請が大幅に遅れた(当初23年7月に 申請完了⇒24年2月に申請がずれ込む)。	23年の欧州向け販売は実現できなかった が、欧州向けの申請は完了し、当局からの 質問に対応中。
海外向け中間体 販売の準備	医薬向けに一定程度濃度アップしたEPAエ チルエステル(高純度EPA原薬の中間工程 段階にある製品)の海外メーカーへの販売 の準備を進めている。	取組み顧客サイドでトライアルを実施中。 24年度の販売を目指す。
健康食品事業の 拡大	コロナが明けて、巣ごもり需要が減速。 通販主力品の販売は苦戦を強いられた。	一方で、EPAグミなどの新形態の製品を 量販店向けに発売開始。ファイン事業は、原 料バルク販売が主力であるが、製品販売比 率を高め、構造転換を図っていく。

2024年3月期 物流事業 売上高・営業利益(前期比)

値上げにより収益性は改善したものの、新物流センター(日水物流株式会社南港物流センター)開業の費用が発生したこともあり利益は前年並み。

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	154	152	▲2	▲1.8
営業利益	15	15	▲0	▲3.6



サステナビリティ目標 2023年度実績

事業を通じた課題解決に取り組むも、目標未達の項目が目立つ結果となった

提供価値	重点テーマ	目標	基準年度 単位	2023年度 目標	2023年度 実績	評価
気候変動と 海洋環境への 貢献	CO2排出量削減	CO2排出量削減 (Scope1,2)	2018年度 総量	8%	6.8%	△
	プラスチック削減	プラスチック使用量削減	2015年度 原単位	8%※	算定中	△
資源の持続 可能性への 貢献	水産資源の持続可能性	持続可能な調達比率	—	(2024年度 80%)	今年度上期 開示予定	△
	責任ある調達(人権)	1次サプライヤーアセス メント比率	—	70%※ (ニッスイ個別)	92%	○
健康課題の 解決	健康領域商品の拡大	当社指定の健康領域商 品売上	2021年度	1.2倍	1.0倍	△
多様な人材 の活躍	従業員エンゲージメント	従業員エンゲージメント スコア向上	2021年度	5%※ のスコア向上	11.6% のスコア向上	○
	女性活躍	女性幹部職比率	—	8%※	6.6%	×

※対象はニッスイ個別

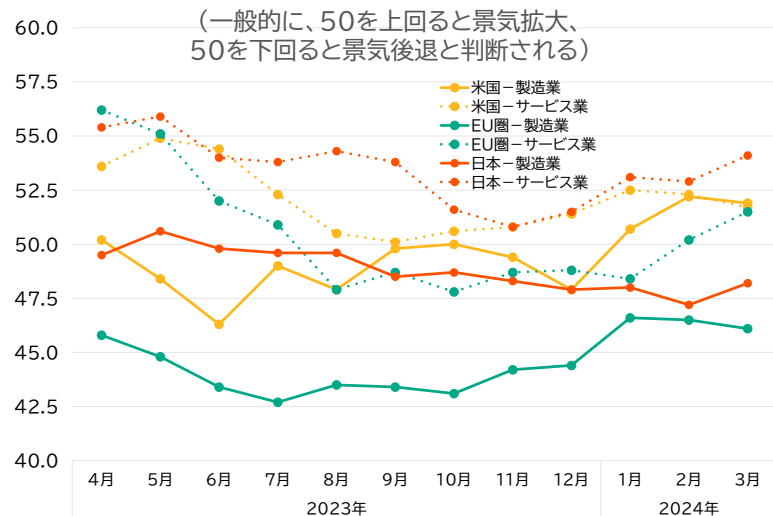
今後の見通し・取組み



引き続き取り巻く環境は不透明。

- ▶ サービス業を中心に景況感は改善傾向も今後の景気動向を注視。

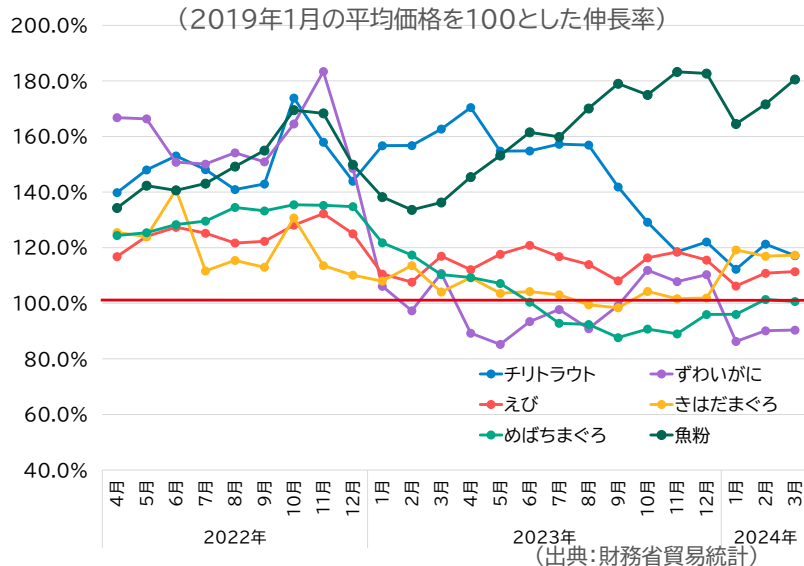
<日本・欧米購買担当者景気指数(PMI)>



(出典:S&P Global)

- ▶ 水産市況はここ数か月は落着きが見られる。

<魚種別価格伸長率推移>

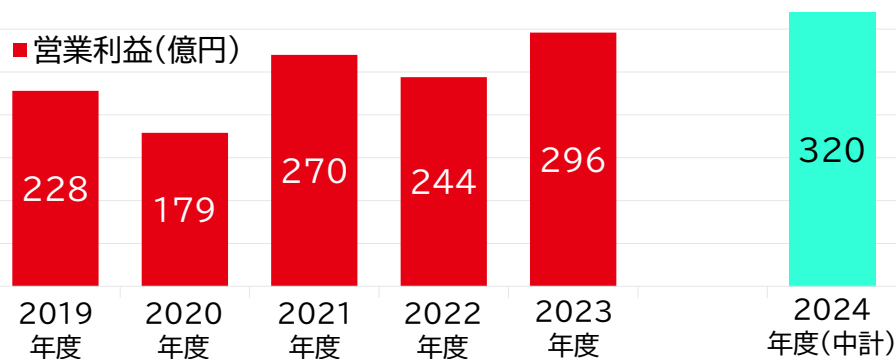


(出典:財務省貿易統計)

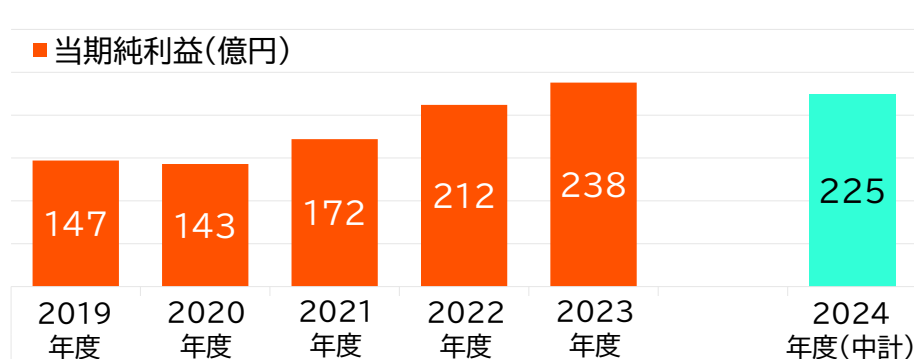
成長分野への投資とともに、適切な事業ポートフォリオへの転換を進める

- ① シナジーが限定的だった日水製菓・ハウスィを売却
- ② 政策保有株式の売却
- ③ 北米・欧州の食品事業のマーケット拡大と収益性改善
- ④ ・国内食品事業の値上げや単品別収支管理による収益性改善
・チルド事業(グルメデリカ)への投資を実施、既存会社との統合効果を今後追求
- ⑤ 国内養殖拡大と食材化推進に加え、欧州鮮魚ビジネスで収益力強化
- ⑥ 医薬原料の海外展開は当初計画から遅れ

▶ 営業利益推移



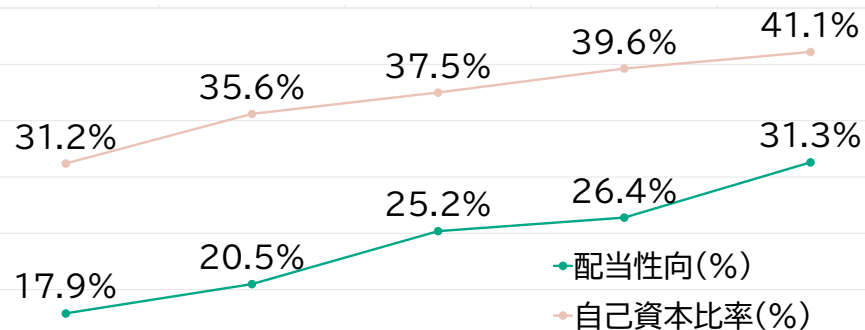
▶ 当期純利益推移



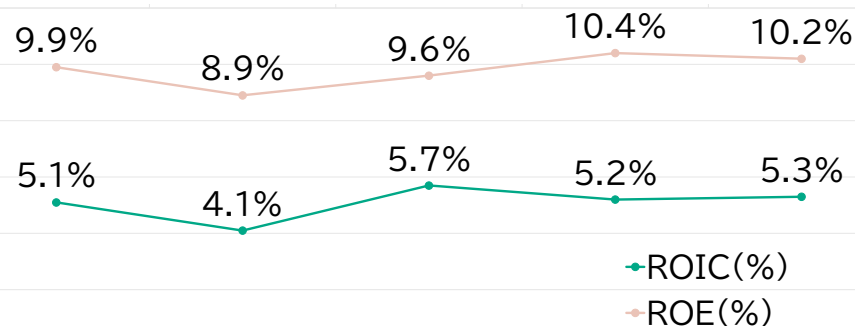
2024年目標のROIC達成も視野に入れる

5期連続増配。中期経営計画-Recipe1の配当性向30%の目標はクリア

▶ 配当性向・自己資本比率推移



▶ ROIC・ROE推移

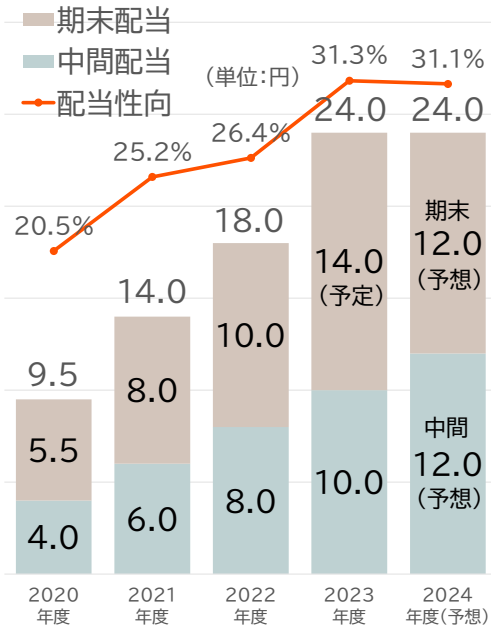


2025年3月期 計画 サマリー

売上高・各段階損益とも中期経営計画-Recipe1を達成し、過去最高を目指す計画。

	2024年3月期 実績	2025年3月期 計画	対前期比 増減	増減率(%)
売上高	8,313 億円	8,750 億円	436 億円	5.2
営業利益	296 億円	325 億円	28 億円	9.6
経常利益	319 億円	350 億円	30 億円	9.5
当期 純利益	238 億円	240 億円	1 億円	0.6
ROIC	5.3 %	5.8 %	0.6 %	

中期経営計画 (2022年発表)	対中計比 増減
7,900 億円	850 億円
320 億円	5 億円
350 億円	0 億円
225 億円	15 億円
5.5 % 以上	



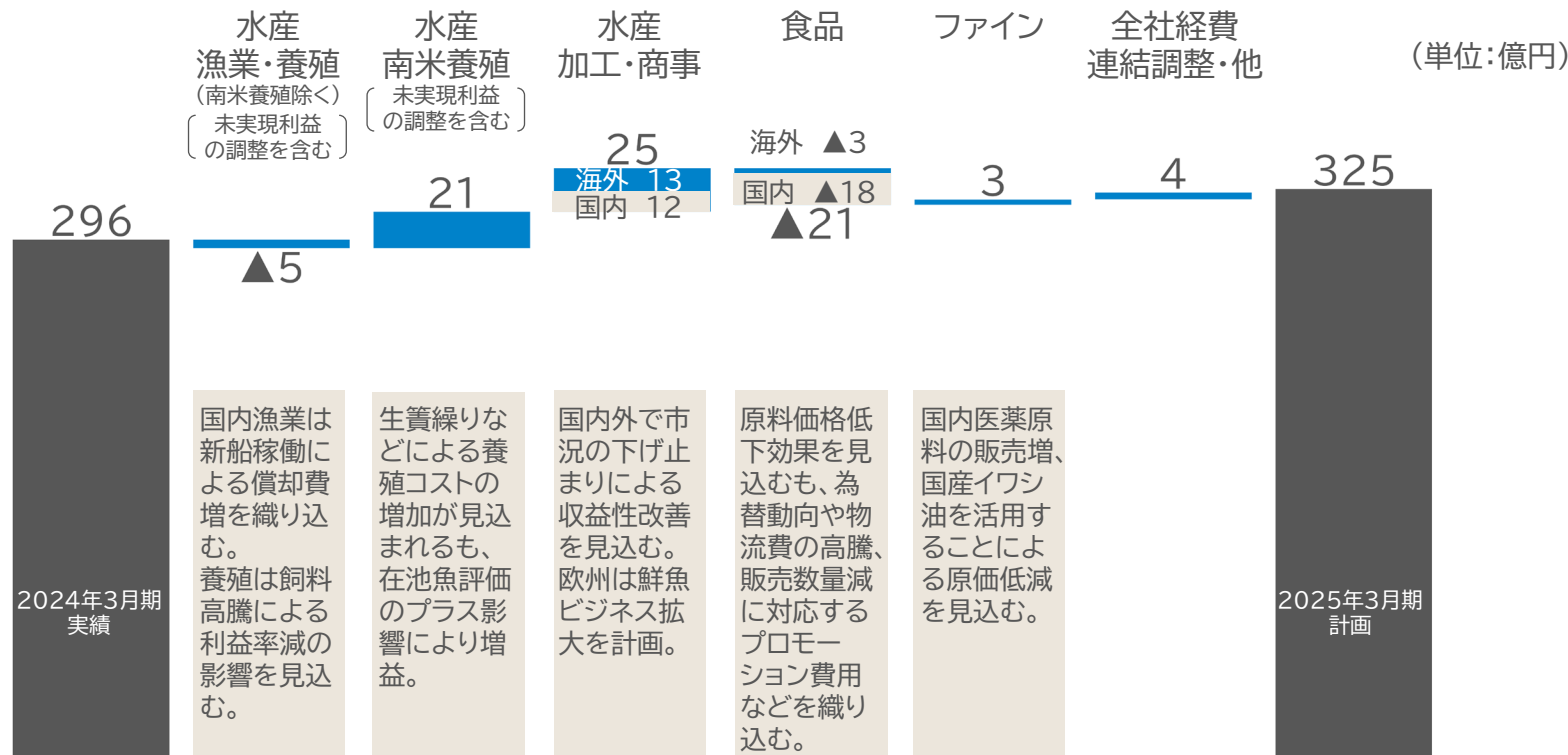
2025年3月期 計画 セグメント別概況

水産市況の下げ止まりが見えてきたうえ、南米養殖の在池魚評価のプラス影響で水産の利益が持ち直し、食品をカバー。ファインケミカルの海外展開は時期が見込み難く、計画に織り込まず。

(単位:億円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 計画	対前期比増減		中期経営計画 (2022年発表)	対中計比増減	
			(億円)	率(%)		(億円)	率(%)
売上高	8,313	8,750	436	5.2	7,900	850	10.8
水産事業	3,368	3,511	142	4.2	3,088	423	13.7
食品事業	4,432	4,705	272	6.1	3,991	714	17.9
ファインケミカル事業	156	165	8	5.1	394	▲229	▲58.1
物流事業	152	167	14	9.8	163	4	2.5
その他	202	202	▲0	▲0.4	264	▲62	▲23.5
営業利益	296	325	28	9.6	320	5	1.6
水産事業	106	144	37	35.1	157	▲12	▲8.0
食品事業	272	255	▲17	▲6.6	172	83	48.3
ファインケミカル事業	▲1	3	4	—	64	▲61	▲95.3
物流事業	15	20	4	30.2	21	▲1	▲4.8
その他	7	9	1	21.4	9	0	0.0
全社経費	▲104	▲107	▲2	2.2	▲103	▲3	3.4
経常利益	319	350	30	9.5	350	0	0.0
親会社株主に帰属する当期純利益	238	240	1	0.6	225	15	6.7

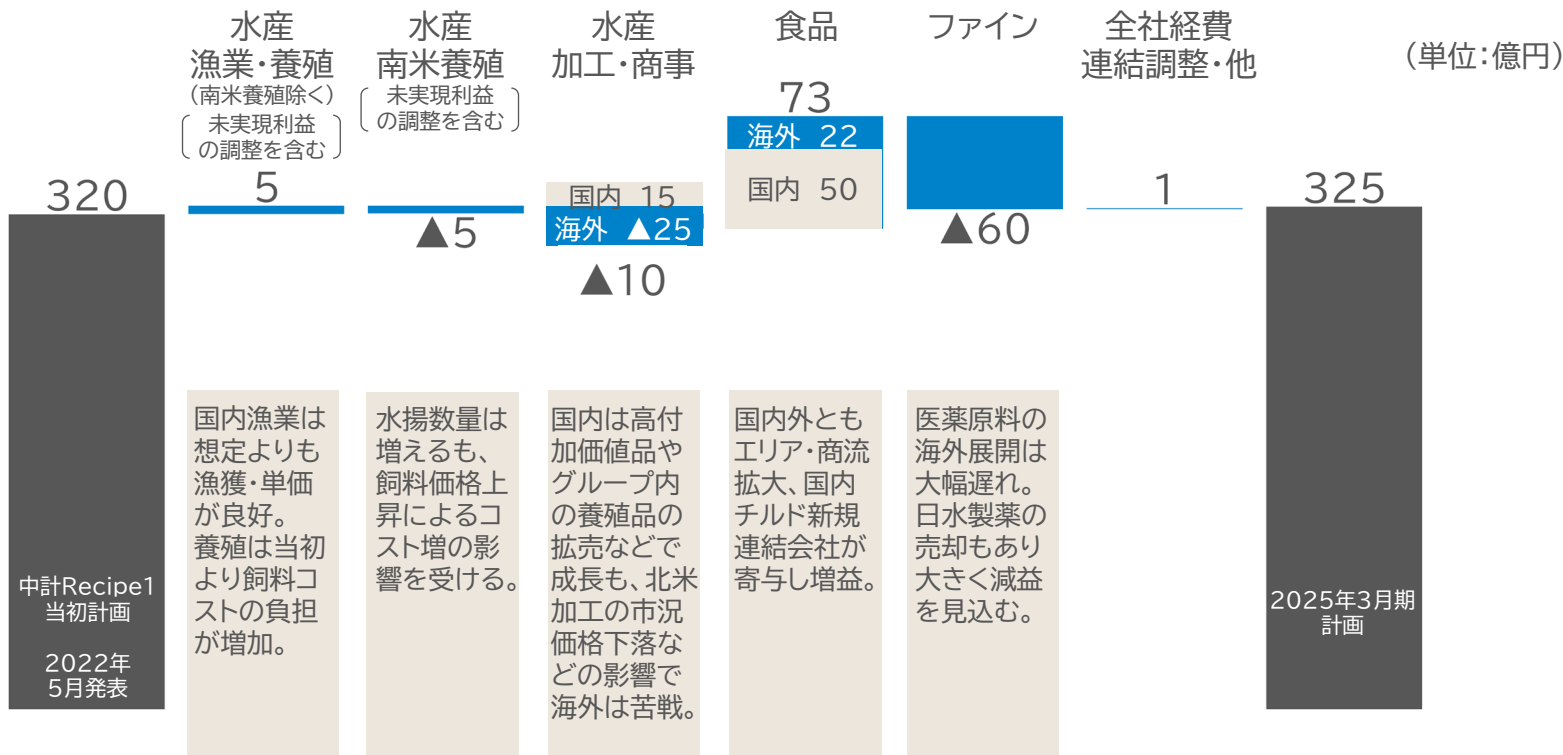
2025年3月期 計画 主な営業利益増減要因(前期比)

2024年度は水産が食品をカバーする年に。



2025年3月期 計画 主な営業利益増減要因(中計比)

海外水産加工が苦戦も、食品が大きく成長。ファインケミカルは日水製薬の売却に加え海外展開が大幅に遅れる。



水産事業と食品事業の利益補完

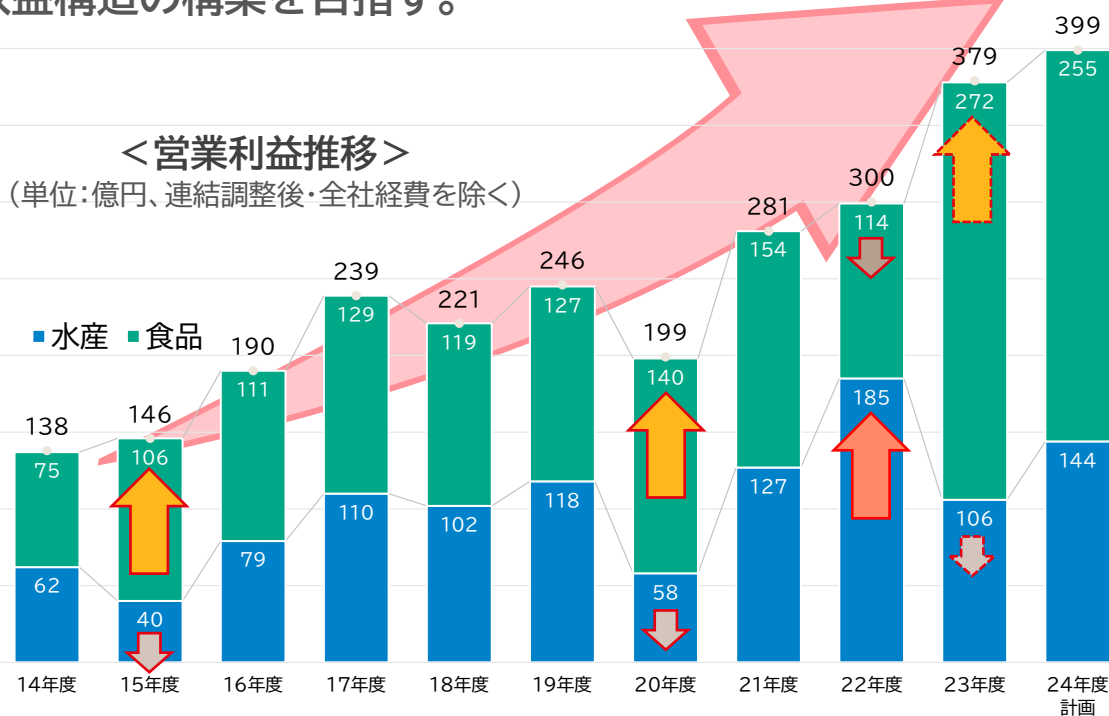
水産事業と食品事業は互いに補完しつつ、着実に利益水準を切り上げてきている。更に収益性を高め、ボラティリティーの低下に努めていくとともに、24年度中に今後のファインケミカル事業の見通しを定め、より安定した収益構造の構築を目指す。

水産市況と食品事業の利益が連動している



<営業利益推移>

(単位:億円、連結調整後・全社経費を除く)



サステナビリティ目標 2024年度目標

中計最終年度であることを意識し、進捗が遅れているテーマへの対応スピードを上げる

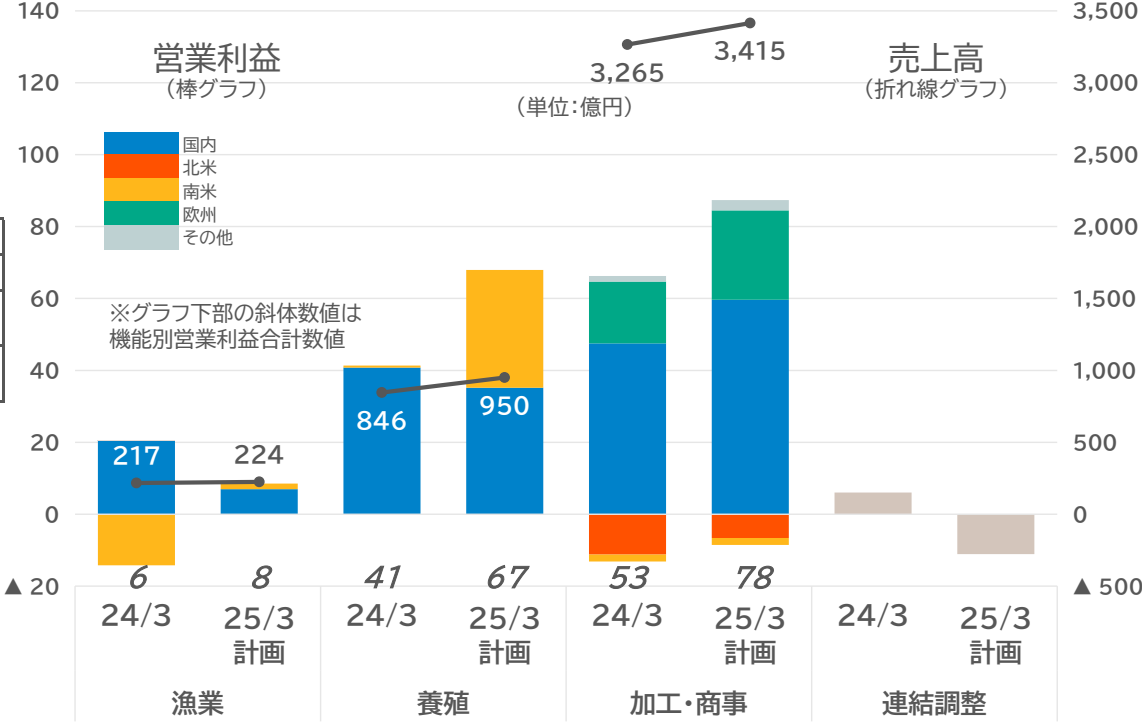
提供価値	重点テーマ	目標	基準年度 単位	2030年度 目標	2024年度 目標	2024年度取組み
気候変動と 海洋環境への 貢献	CO2排出量削減	CO2排出量削減 (Scope1,2)	2018年度 総量	30%	10%	・ 太陽光発電設備の導入(オフサイトの検討) ・ 事業所の省エネ、高効率設備への更新、再エネ由来電力への切り替え、モーダルシフトの拡大など
	プラスチック削減	プラスチック使用量削減	2015年度 原単位	30%※	10%※	・ 商品設計への反映 (減容化、紙トレー化、トレーレス、バイオマスプラ等) ・ 物流資材のプラ削減、リサイクル促進
資源の持続 可能性への 貢献	水産資源の持続可能性	持続可能な調達比率	－	100%	80%	・ 第3回水産資源調査結果を踏まえた持続性確保・向上策の立案・実行
	責任ある調達(人権)	1次サプライヤーアセスメント比率	－	100% (主要な1次サプライヤー)	100%※ (ニッスイ個別)	・ SAQ回答を基にしたサプライヤーエンゲージメント ・ サプライチェーン情報の整備
健康課題の 解決	健康領域商品の拡大	当社指定の健康領域商品売上	2021年度	3倍	1.3倍	・ 医薬品原料の海外市場開拓 ・ 速筋タンパクのプロモーション強化とブランド認知拡大
多様な人財 の活躍	従業員エンゲージメント	従業員エンゲージメントスコア向上	2021年度	20%※ のスコア向上	10%※ のスコア向上	・ 風土づくり、一体感の醸成支援 ・ 成功事例の要因分析と広報、全社活動強化
	女性活躍	女性幹部職比率	－	20%※	10%※	・ 従業員中心の取り組みを開始。男女ともに仕事と育児を両立し、自らが描くキャリアを実現できる組織づくりを強化

※対象はニッスイ個別

2025年3月期の取組み： 水産事業

市況の下げ止まりや不採算在庫の整理などによる加工商事の収益改善に加え、南米養殖の在池魚評価のプラス影響もあり、飼料高騰の影響が見込まれる国内養殖をカバー。

(単位:億円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 計画	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,368	3,511	142	4.2
営業利益	106	144	37	35.1



今後の取組み： 水産事業(漁撈)

環境への配慮や操業の効率化などに取組む。

▶ 国内・オセアニア

- ー (国内)中西部太平洋カツオ・キハダマグロまき網漁業でMSC漁業認証を取得。



➡ 資源管理に基づいた持続可能で環境に配慮した漁業を推進していくことで、取り扱う天然水産物における各種認証(MSCなど)品の増加に寄与

- ー (オセアニア)ニュージーランドの漁業会社を買収、既存会社と併せて同国1位の水産会社へ。



➡ 水産資源アクセス力の強化だけでなく、既存の漁業会社との冷蔵庫の活用や情報共有、漁獲枠の融通など、漁獲や操業の効率化を見込む

▶ 南米

- ー 漁船の故障により操業日数減少。これによりすりみ生産減少
- ー 22年に減損をしたことで償却費が減少したものの、冷凍機故障による修繕費増に加え、インフレによる人件費増、操業停止したことによる係留費用増の影響をカバーできず。
- ー (今後の打ち手)ほき漁獲枠増による漁獲量増加、ニーズが高まるフィレーの生産拡大による市場開拓、最新機種への更新による故障原因のコントロールなどを見込む。

<南米漁業事業の位置づけ>

チリ漁業法(工船参入制限)の規制下では、チリ海域での工船の新規参入が禁止されていることから、資源の持続性が担保された差別化できる漁業が可能な事業。

今後の取組み： 水産事業(養殖)

養殖の高度化と拡大で水産事業の収益力を強化。

<ROIC向上の施策> ➡

税引後営業利益	効率化・最適化	(ぶり)大型生簀による数量増と作業集約で生産性改善
		(まぐろ)2つの養殖会社の協働深化による収益力強化
		魚粉比率低減や成長性向上を図るため、配合飼料の研究開発や飼料の空気圧送などの取組みを継続
	事業拡大	(銀鮭他)養殖拠点の拡大
投下資本	高付加価値	(南米)高付加価値品を北米を中心に販売拡大し、収益力を向上させる。
	養殖の高度化	育種や仕組みの構築によって短期間で大きく育つ養殖の拡大 (完全養殖ぶり、短期畜養まぐろ)
		養殖適地に限りがある中、陸上養殖への展開を進める

(日本)銀鮭養殖の拠点拡大



広田湾(陸前高田市)で
銀鮭養殖を展開



(南米)生産人員の最適化・再配置による高付加価値品の
増産・拡販で市況に打たれ強い収益構造の構築



北米向け
フィレ増産



日本向け生食
(刺身)製品増産

今後の取組み：水産事業(加工商事)

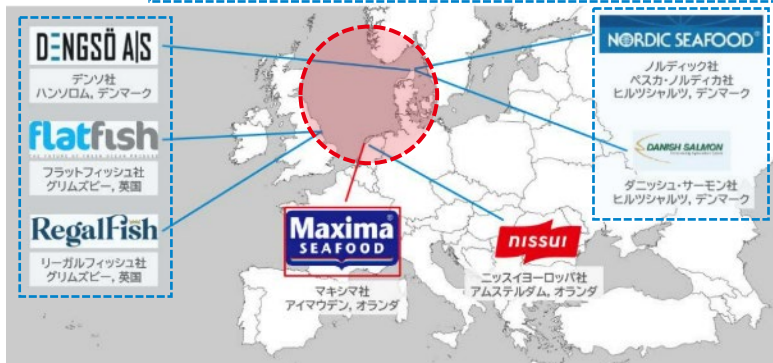
付加価値商品の拡大により収益力強化を図る。

<ROIC向上の施策>



税引後営業利益	欧州加工商事	調達・加工機能の強化を基に更なる顧客ニーズに対応し、販売拡大と収益力強化を図る
	北米加工	製品価格の低迷・労務コスト高止まりなどにより、引き続き苦戦が見込まれるが、更なる資源獲得努力とフィレ生産比率を高め収益確保を目指す
	国内加工商事	4月に取得した加工拠点(陸前高田市)をベースに加工度を高め食材化比率を向上させることに加え、集約型流通事業の取組みを進めていく
資投下	在庫削減	国内外とも従来以上に仕入と在庫の管理を徹底する

(欧州)特に北海周辺の鮮魚ビジネスを強化し、水産事業の拡大と高収益化を図るとともに、ホタテ等の日本産水産物の輸出を拡大し、日欧双方のシナジーを最大化する



加工拠点として岩手県陸前高田市の(株)武蔵野フーズを取得



今後の取組み：水産事業(北米加工)

すりみ・フィレ価格下落に加え人件費の高騰が続く環境だが、資源アクセスの重要拠点であることには変わらない。

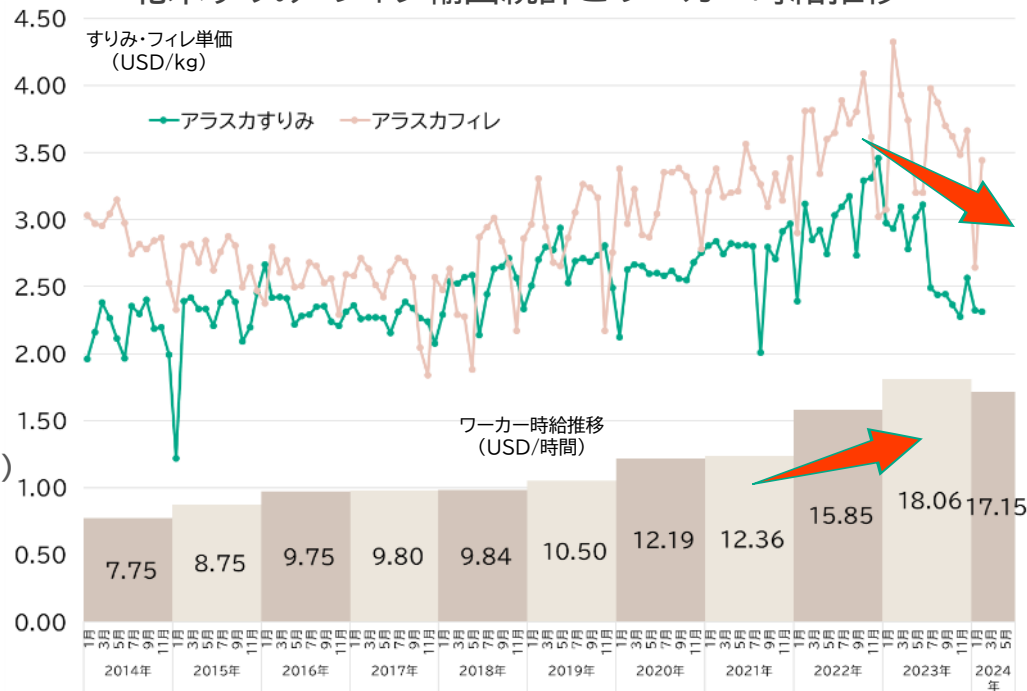
取り巻く環境

- ― すけそうだらすりみ・フィレの市況は、北米すけそうだら漁獲枠が2024年も前年並みを維持していることに加え、ロシア産すりみの増産見込みにより相場低迷が続く
- ― 加工エリア(ダッチハーバー(アラスカ州))の期間雇用ワーカーの時給は2024年は微減となるが高水準に留まる

今後の打ち手

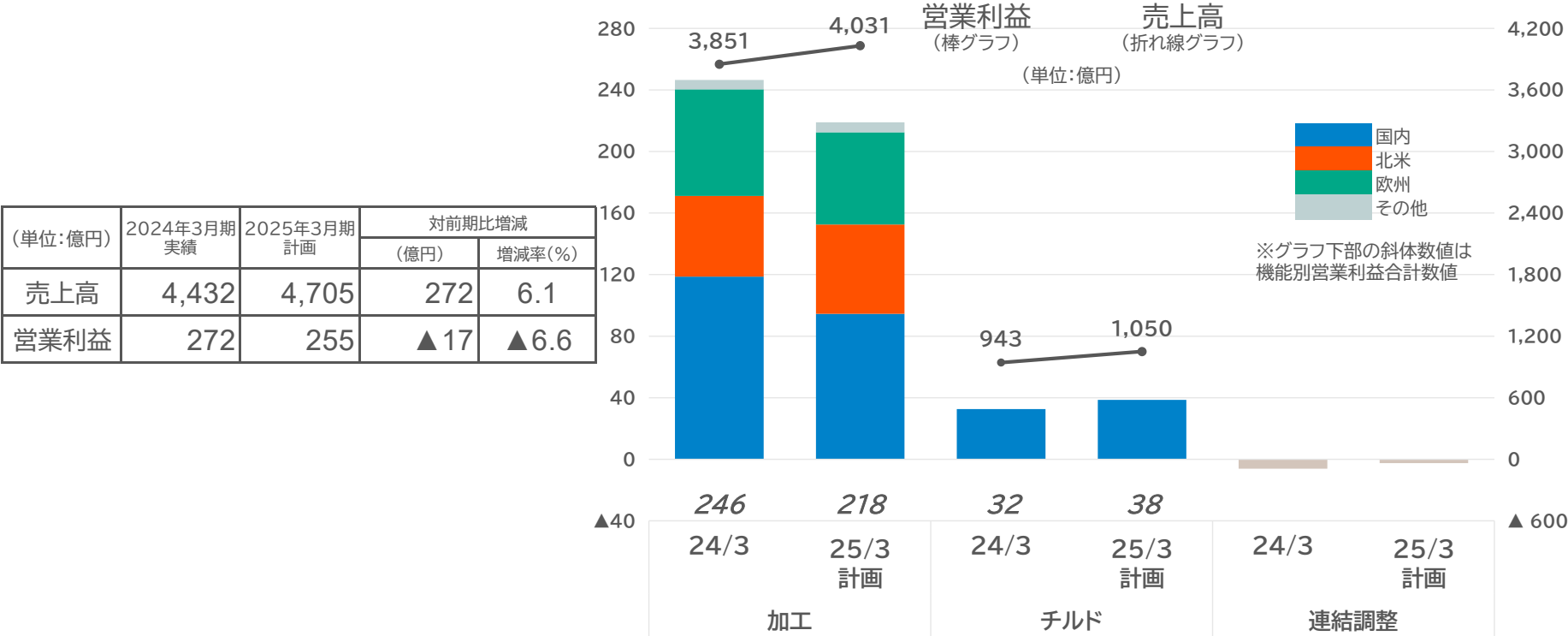
- ― 収益性の高いフィレ生産比率の向上(ライン新設済)
北米品の優位性を活かし欧米市場への販売拡大
- ― 人員の最適化と残業時間の抑制で労務費削減
- ― すけそうだら資源獲得の取組み強化

＜北米すりみ・フィレ輸出統計とワーカー時給推移＞



2025年3月期の取組み： 食品事業

チルドはインバウンド効果などで拡大を見込む。加工は国内外とも原料価格低下あるも、円安や物流費の高騰、販売数量減対策としてのプロモーション費用などを織り込む。



お客様のニーズにお応えするとともに、様々な社会課題の解決に貢献する商品を展開。

<ROIC向上の施策> ➡

税引後営業利益	健康領域商品	「速筋タンパク」や減塩技術を基に、差別化した高付加価値品の販売強化
	事業拡大	カテゴリーNo. 1商品群の拡大や、冷凍幼児食やペットフード等新規カテゴリーの創出
	チルド	昨年グループ入りしたグルメデリカとのノウハウ共有や開発力強化により事業を強化・拡大 チルドと冷凍食品の融合による新カテゴリーの創造
投下資本	資産効率向上	単品別収支管理の継続による生産性向上
		チルド事業の生産体制最適化
		工場群の生産性向上活動スマートワーク2025の推進と機能の再編成

即食・簡便ニーズに対応した
チルド事業をさらに拡大

フローズンチルド/冷凍弁当・冷凍惣菜を
拡大し、個食・簡便ニーズに対応

- 商品開発体制の強化
- 生産性向上に向けた生産工場の最適化
- カバーエリア拡大による配送効率などの向上



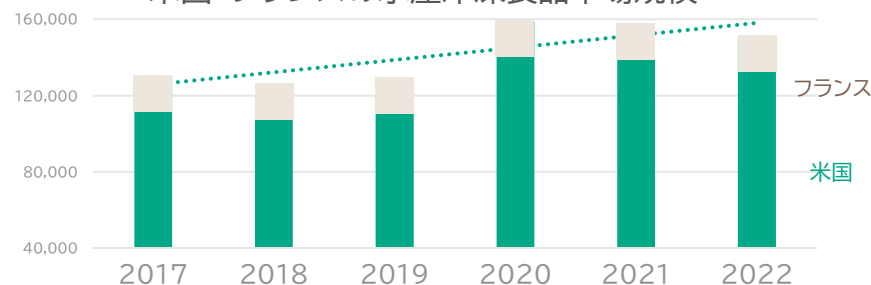
レンジ調理で
簡単に喫食できる
ワンプレート冷凍食品
(2024年3月発売)

今後の取組み： 食品事業(海外)

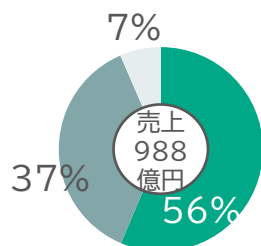
需要が拡大する欧米においては、グローバルなサプライチェーンを基盤に、カテゴリやエリアの拡大によりトップラインの伸長を図る。

▶ 欧米での市場規模 (出典：北米-IRI、欧州-FranceAgriMer)

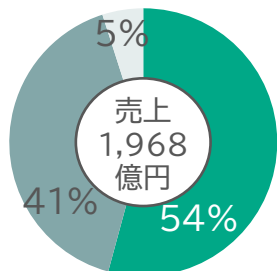
単位：トン <米国・フランスの水産冷凍食品市場規模>



▶ 当社の海外売上高_推移






2017年度



2023年度

▶ 当社の戦略(欧米)

新規市場	スペイン (シテマリン社) イタリア・スペインへの販売エリアの拡大 	アメリカ (キングアンドプリンス社) 業務用のチャンネルを活かして、新商品・アジア市場拡大 
	フランス (シテマリン社) スピーディーな商品開発と高品質なチルド白身魚フライ アメリカ (ゴートンズ社) 北米シェアNo.1ブランド「Gorton's」の白身魚フライ	アメリカ (ゴートンズ社) No.1「Gorton's」ブランドを活かした健康訴求商品やエビフライカテゴリの拡大 
	既存商品	新規商品

海外食品事業の拡大戦略を支える白身魚サプライチェーン
(ユニシー社、エンデバス社、ノルディック社等)

成長する海外食品事業を拡大。

<ROIC向上の施策>

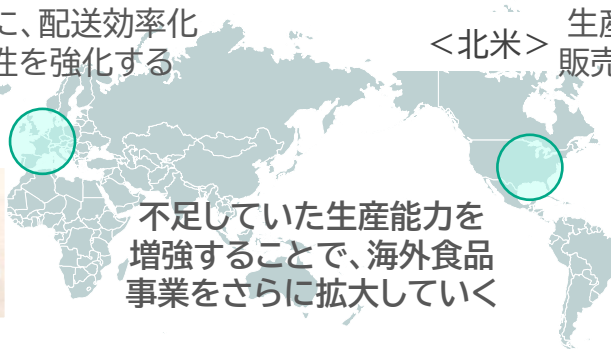


営業利益 税引後	北米	商品カテゴリーの拡大(家庭用えび商品、業務用白身魚商品)に加え、健康志向の新品「Air Fried」やアジア市場向け商品の拡売を図る
	欧州	フレッシュ感のあるチルド食品を中心とした販路拡大に加え、スペインやイタリアなどフランス周辺国への販売エリア拡大
投下資本	生産能力 増強	欧米とも需要増に対応するための能力増強投資を計画 (2025年稼働予定)
	新たな 市場開拓	アジア市場は24年度中に新たな戦略を策定

<欧州> 生産能力を拡大するとともに、配送効率化と包装設備自動化で収益性を強化する



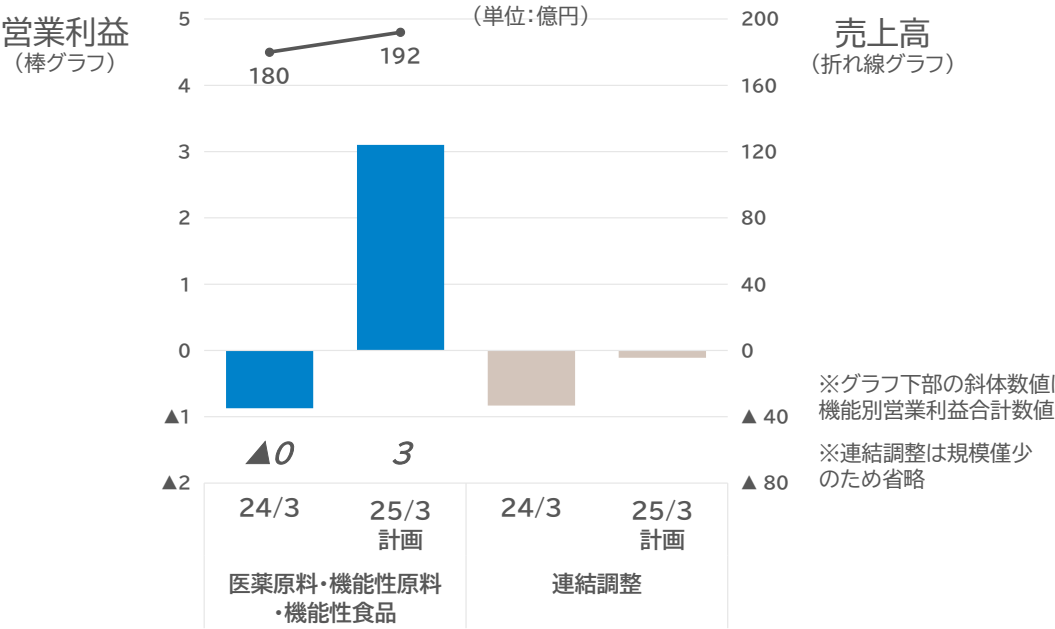
<北米> 生産能力増強投資に加え、原料調達・製品販売の物流効率化、生産品目最適化を図る



2025年3月期の取組み： ファインケミカル事業

医薬原料の海外展開を進めているが、欧州の承認時期や米国の輸出再開時期が見込み難いことから計画に織り込んでいない。通販は紅麴問題の影響が残る想定。

(単位:億円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 計画	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	156	165	8	5.1
営業利益	▲1	3	4	—



世界で医薬品向け高純度EPAと医薬中間体(※)を拡大していく。



※医薬中間体: 医薬向けに一定程度濃度アップしたEPAエチルエステル
高純度EPA原薬の中間工程段階にある製品

今後の取組み:ファインケミカル事業(通販・物販)

通信販売では、定期顧客に対してポイントプログラムを導入するなど、丁寧な対応により、離脱防止を徹底する。

また、原料バルク販売が主力のファイン事業において、EPAやDHAの魚油精製技術を強みとした、高付加価値製品の販売比率を高めることで、構造転換を図っていく。

<当社の主要な健康食品ラインナップ>

通信販売

【 EPA系 】



【 DHA系 脳機能+α 】



【 速筋 タンパク 】



量販店販売

【 EPAグミ 】



通信販売・量販店販売の両方のチャンネルで展開

時間外労働時間上限厳格化によりリソースが大幅減少となる影響を様々な打ち手で対応。

▶ 幹線輸送

- 一 荷役作業効率化(輸送のユニット化)を実施
- 一 長距離輸送を分割し、トレーラーでのリレー運行へ移行(モーダルシフト・中継拠点の活用)

フェリー・RORO船による
モーダルシフト化



ユニット化



トレーラー化



▶ エリア配送

- 一 200kmを超える納品先への納品リードタイムを延長
- 一 納品時の付帯作業を撤廃し、配送の効率を上げる



納品時付帯作業を撤廃し
ホワイト物流を推進



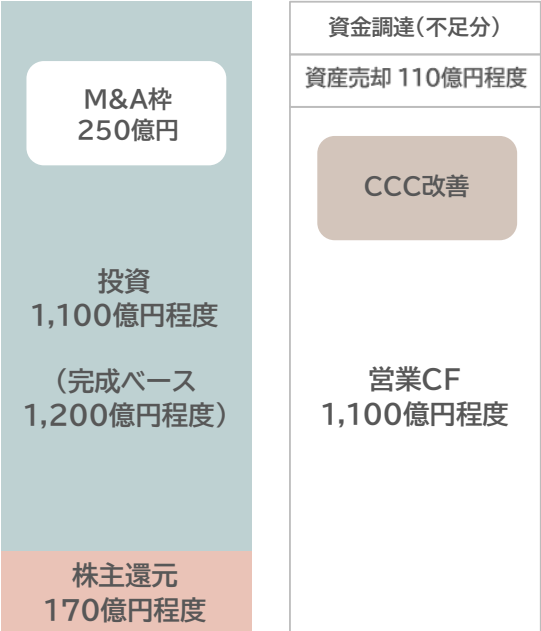
▶ 待機時間削減

- 一 バース予約システムを導入し、待機時間を削減



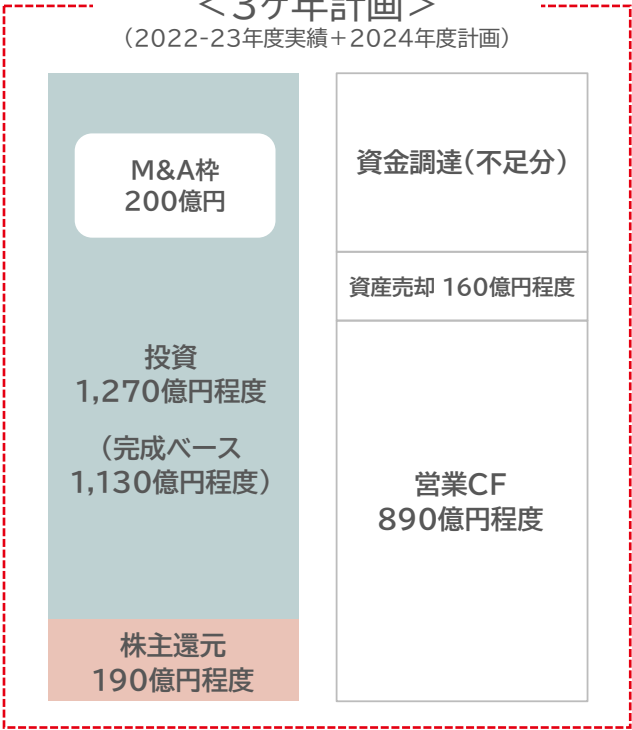
欧州でのビジネス拡大に向けた株式追加取得などもあり、中計比で投資額が増加。

<中計>



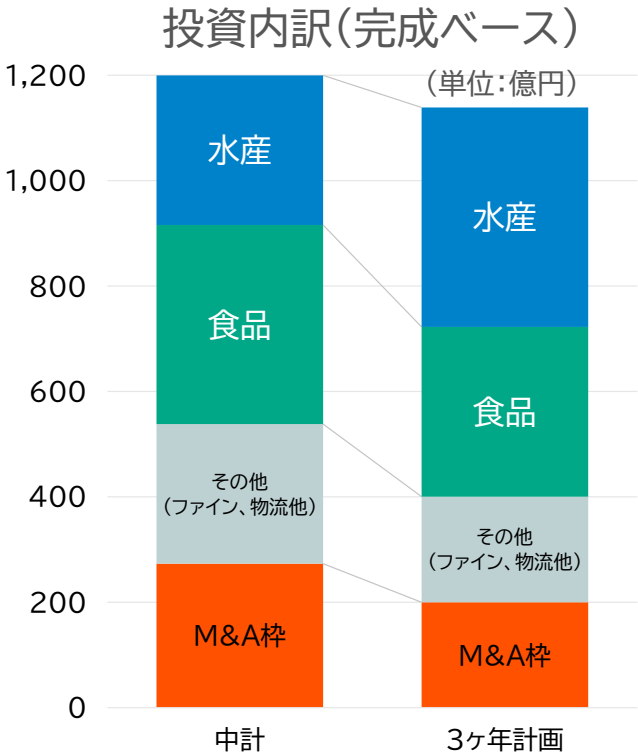
<3ヶ年計画>

(2022-23年度実績+2024年度計画)



設備投資計画(2022-23年度実績+2024年度計画)

養殖を含めた資源アクセスの強化や海外事業などの成長分野に積極的に投資。



▶ 3年間(2022-24年)での設備投資予定総額は、M&A 200億円を含め、中計で掲げた投資規模とほぼ同額

一 水産事業:約410億円

中計との差異: 海外加工商事…M&A実施他(+約60億円)
国内漁業…船舶建造他(+約30億円)

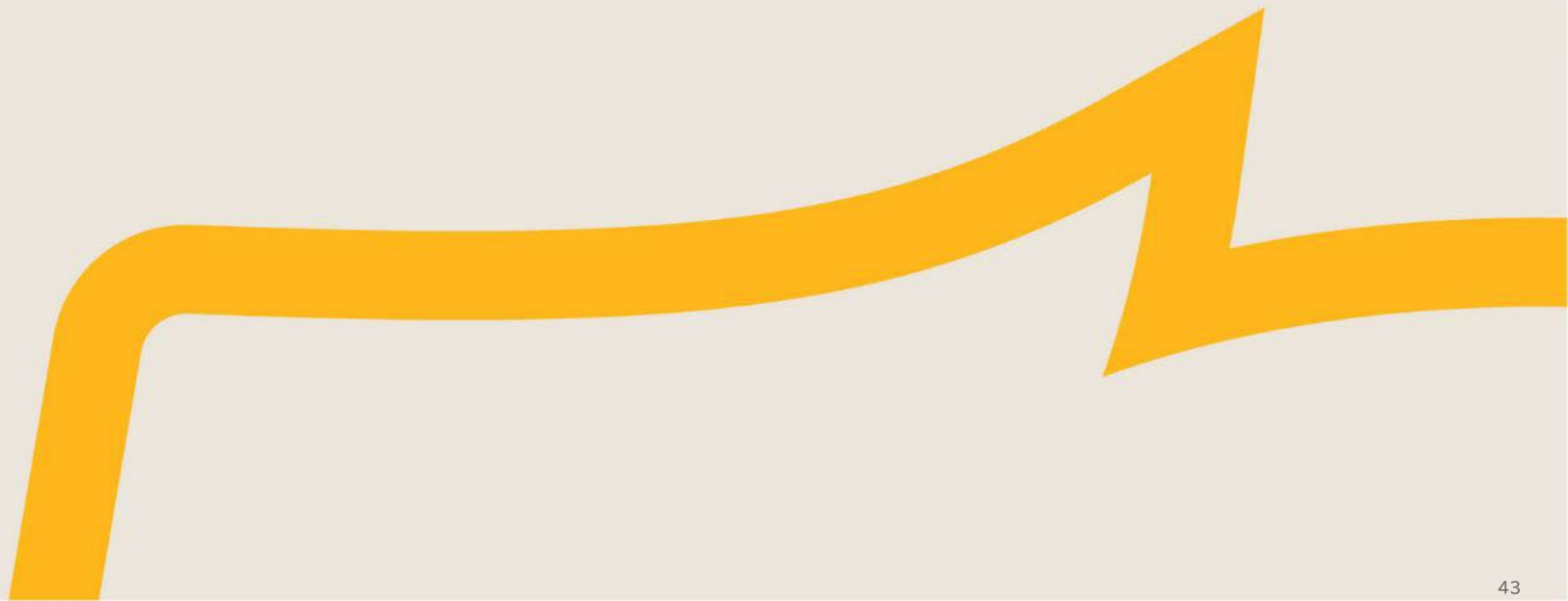
一 食品事業:約320億円

中計との差異: 国内…工場再編投資期ズレ
海外…北米でのM&A未実現、欧州新工場投資(既存工場の増設にシフト)

一 その他:約400億円

中計との差異: 物流…物流センター新設投資未実現
ファインケミカル…日水製薬連結除外影響
M&A…海外を中心としたM&Aを想定

サステナビリティの取組み



水産資源への影響も懸念される地球温暖化への取組みを強化していく

- ▶ 温室効果ガスの排出量削減に向け、太陽光発電設備の導入や自然冷媒冷凍・冷蔵設備の導入を進めていく。

<環境対策投資の主な実例>

2023年度実施(約17億円)



太陽光発電設備導入
(国内外食品、他)



設備更新で脱フロン化・
自然冷媒への切替実施
(国内食品、他)

2024年度予定(約20億円)



太陽光発電設備導入
(国内養殖、物流、他)

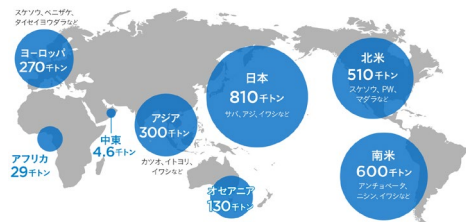


脱フロン化、自然冷媒
機器への更新
(物流、他)

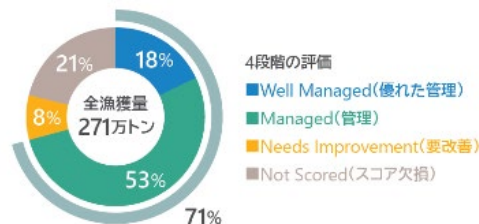
水産資源の持続可能性:取り扱い水産物の資源状態調査

2022年にニッスイグループが調達した水産物を対象に第3回資源状態調査を実施。
調査結果と今後の取組みは2024年度上期中に発表予定。

ニッスイグループ取り扱い水産物の資源状態調査



前回(第2回)の調査結果



第3回
調査中

前回同様に分析は第三者機関(米国NGO)へ委託

2024年度上期中に発表予定

調査結果を踏まえ、課題魚種についての持続性確保・向上策を立案。
今後の取り扱いに反映させ、持続可能な調達比率を高めていきます。

2023年度はTNFDのLEAPアプローチに取り組み、自然への依存と影響を把握し、リスクと機会を評価。業界に先駆けてTNFD情報開示を行うとともに、TNFD Early Adopter(早期採用者)として登録された。

TNFDレポートの発行(日本語・英語)



日本語 <https://nissui.disclosure.site/ja/themes/89#469>
英語 <https://nissui.disclosure.site/en/themes/89#469>

TNFD Early Adopter(早期採用者)として登録

The image is a screenshot of the TNFD Early Adopters webpage. The header includes the TNFD logo and navigation links: About, Recommendations, Guidance & Tools, Engage & Adopt, Knowledge Hub, Publications, News and Media. There is a button 'Adopt the TNFD' and a link 'Create a profile / Log in'. The main heading is 'TNFD Early Adopters' with a subtext: 'A list of inaugural Early Adopters who have signalled their intent to start adopting the TNFD Recommendations'. Below this is a table with four columns: Organisation and Jurisdiction HQ, TNFD-aligned disclosure(s) by financial year, Sector Classification (SASB), and Type of Institution. The table lists Nissui Corporation as an Early Adopter for 2025, in the Fisheries sector, as a Corporate entity, based in Japan.

Organisation and Jurisdiction HQ	TNFD-aligned disclosure(s) by financial year	Sector Classification (SASB)	Type of Institution
Nissui Corporation Early Adopter Japan	2025	Fisheries	Corporate

出所: TNFDウェブサイト <https://tnfd.global/engage/inaugural-tnfd-early-adopters/>

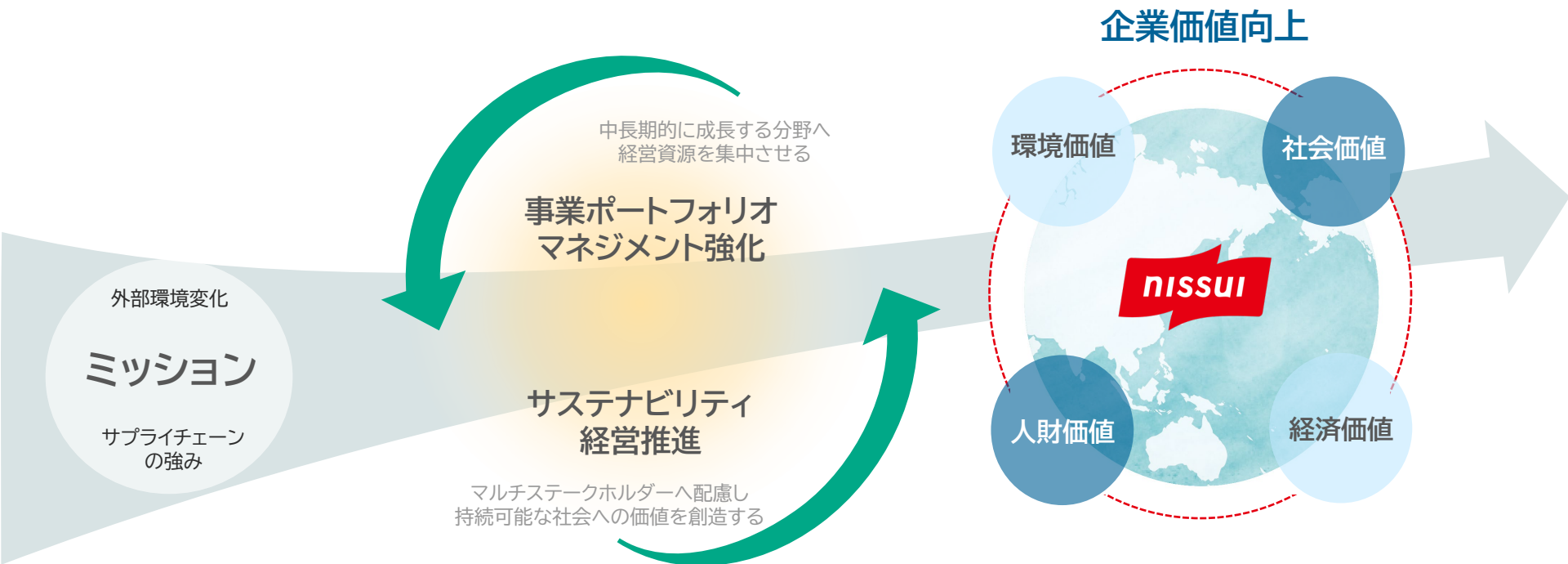
ステークホルダーの皆様からいただいたご評価・ご意見を参考に
次回TNFDレポート発行に向けた新たな分析・評価に取り組めます。

次期中計に向けて



2030年長期ビジョン(2030年のありたい姿) - 2022年4月発表 -

「人にも地球にもやさしい食を世界にお届けするリーディングカンパニー」
(Good Foods 2030)を2030年のありたい姿とする。



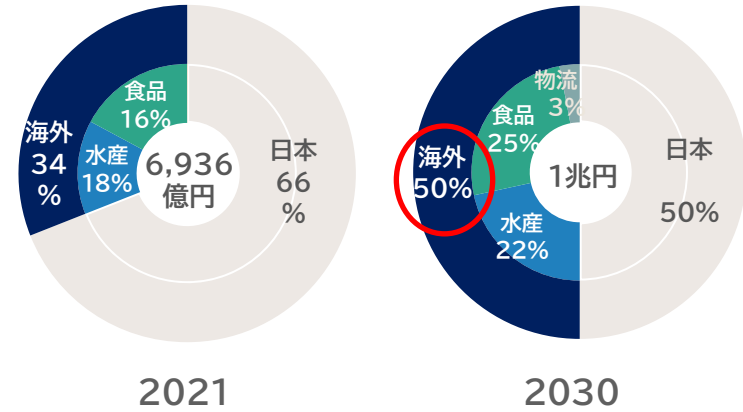
2030年の事業ポートフォリオ像 - 2022年4月発表 -

ありたい姿を実現するため、事業ポートフォリオマネジメントを進める。

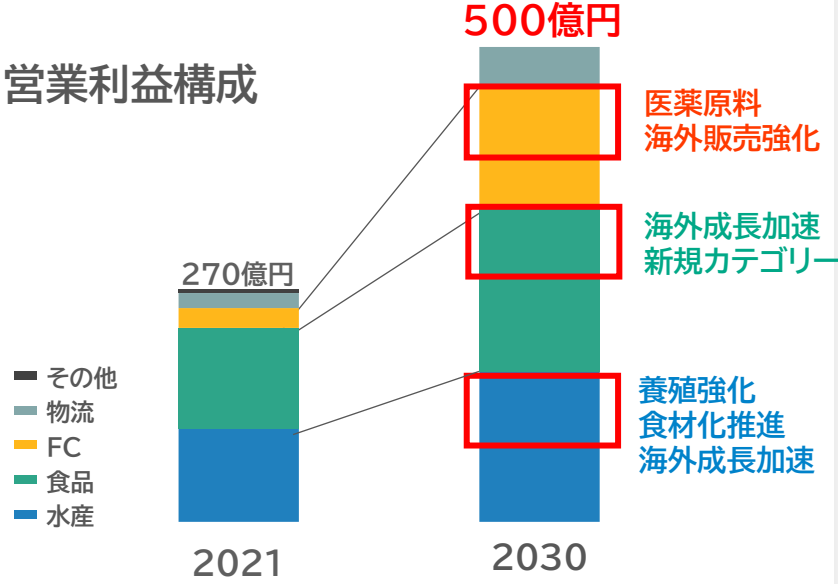
- ▶ 海外(食品・水産)事業の成長加速に加え、ファインケミカル事業、養殖事業の強化により営業利益500億円を目指す

経済価値

売上高構成



営業利益構成



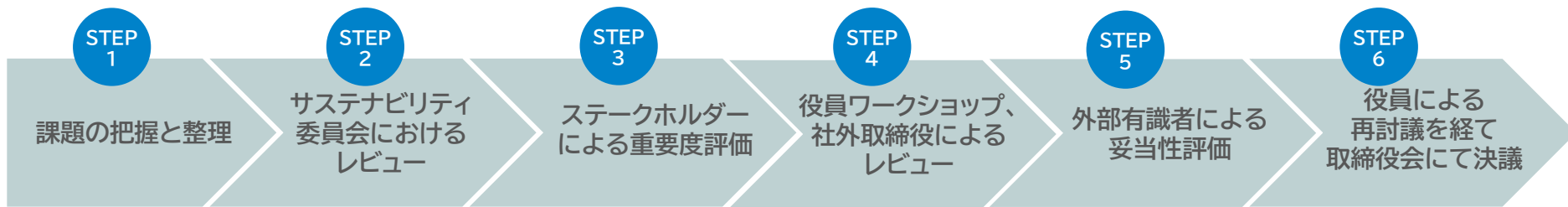
次期中期経営計画 Good Foods Recipe2

長期ビジョンの達成に向け、優先的に取り組むべき課題の見直しも含め、2024年度はRecipe2の策定に入る。

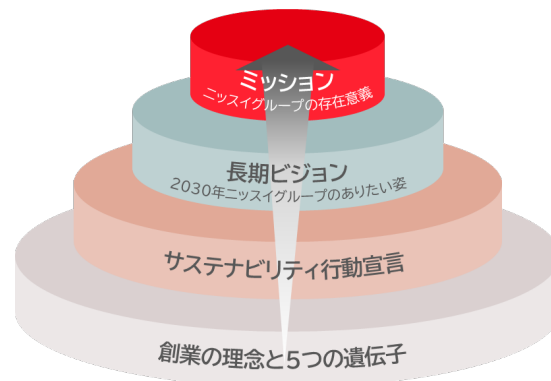


前回策定から7年が経過し、外部環境が変化してきた

- ▶ 社内外の環境変化に対応するべく、ミッション及び長期ビジョンに即したマテリアリティの見直しを実施




- ー 選択と集中(経営資源の配分)
- ー ステークホルダーからの指摘
- ー リスクマネジメントの強化(経営戦略と連動した重要リスクの選定)
- ー グループグローバルの視点
- ー 次期中期経営計画への反映



ニッスイグループの新マテリアリティ

ミッション・長期ビジョンおよび今回見直したマテリアリティを基に、2025年度からの次期中期経営計画「Good Foods Recipe2」策定を進めてまいります。

マテリアリティ(重要課題)		主な取り組み
Recipe for the Planet 持続可能な 地球環境を創る	海洋の生物多様性の主流化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海洋の生物多様性および海洋環境の保全 ・ 水産資源の持続的な利用
	脱炭素・循環型社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気候変動への対応 ・ 循環型社会実現への貢献(フードロス削減、プラスチック使用量削減など)
Recipe for the Society 健やかな社会を ともに創る	持続可能なサプライチェーンの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ サステナブル調達への推進(トレーサビリティの確保、人権尊重、環境配慮など) ・ 食の安全・安心、品質保証
	健康課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> ・ 健康領域商品の拡大
Recipe for the Teammates 活き活きと働く 人財を創る	人財育成と多様な人財の活躍	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営戦略と連動した人財戦略 ・ ダイバーシティ&インクルージョン
	労働力確保と生産性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 働き方改革、省人化、生産性の向上 ・ 労働安全、健康経営
	ミッションへの共感とブランディング	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミッション浸透、ブランディング ・ 従業員エンゲージメントの向上
Recipe for the Growth 食の可能性を追求し、 未来を創る	DXによる革新	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル活用による業務効率化 ・ DXによる革新と競争優位の獲得
	グローバル展開の加速	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海外事業展開の加速 ・ 地政学リスクへの対応
	食に関わるイノベーションの創出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい“食”の創造



変化への対応力を上げ、
長期ビジョン

「人にも地球にもやさしい食を世界に
お届けするリーディングカンパニー
(Good Foods 2030)」
達成に向けて取り組んでまいります。

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。



まだ見ぬ、食の力を。

株式会社ニッスイ

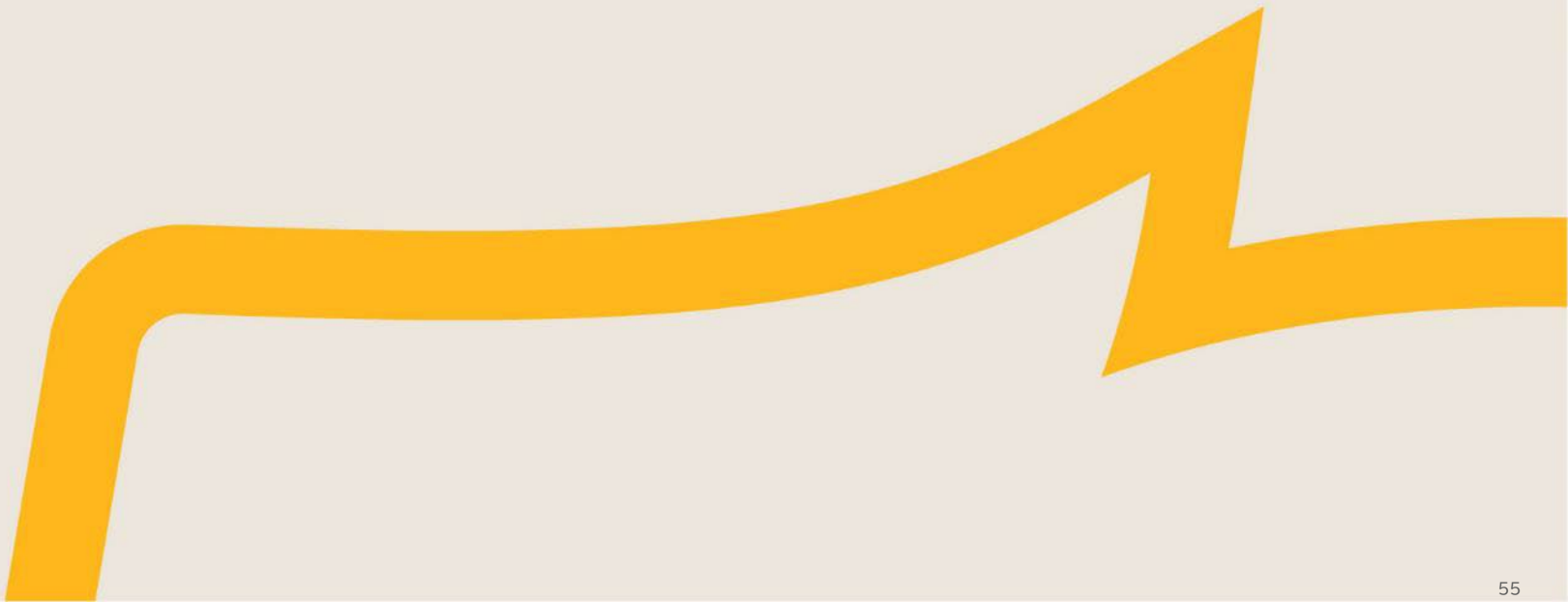
証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部IR課

03-6206-7037

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

参考資料



2024年3月期 連結損益計算書(前期比)

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	増減	主な増減要因
売上高	7,681	8,313	631	
売上総利益	1,160	1,256	95	
販売費・一般管理費	915	959	44	
営業利益	244	296	51	
営業外収益	53	55	2	
営業外費用	20	32	12	支払利息+13
経常利益	277	319	41	
特別利益	67	56	▲10	投資有価証券売却益+12、漁業権譲渡益+9 関係会社株式売却益▲34
特別損失	51	28	▲23	関係会社整理損▲5、災害による損失▲4、 投資有価証券売却損▲3
税金等調整前当期純利益	292	348	55	
法人税等	78	113	34	
法人税等調整額	▲6	▲11	▲5	
当期純利益	220	246	26	
非支配株主に帰属する 当期純利益	7	8	0	
親会社株主に帰属する 当期純利益	212	238	26	

2024年3月期 為替換算による影響額(売上高)、為替レート（連結調整前）

主要在外会社の 為替換算レート	2023年3月期 実績		2024年3月期 実績		前期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	1,458	1,921	1,483	2,089	24	167	28	139
EUR(百万ユーロ)	418	579	457	700	39	120	53	66
DKK(百万クローネ)	3,703	690	3,280	673	▲423	▲17	▲80	63
その他通貨	—	309	—	354	—	45	18	26
計		3,501		3,817		315	20	295

【参考:為替レート】

※右表の為替レートは
第4四半期の平均

	2023年3月期 第4四半期	2024年3月期 第4四半期	変動率
米ドル(USD)	139.94 円	146.14 円	4.4%
ユーロ(EUR)	144.21 円	159.10 円	10.3%
デンマーククローネ (DKK)	19.39 円	21.33 円	10.0%

2024年3月期 セグメントマトリックス 売上高(前期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	2,482 (105)	660 (53)	359 (12)	63 (▲ 6)	763 (5)	4,328 (170)	▲ 960 (▲ 85)	3,368 (85)
	2,377	606	346	69	758	4,158	▲ 874	3,283
食品事業	2,826 (383)	1,067 (100)		97 (9)	803 (144)	4,795 (638)	▲ 362 (▲ 25)	4,432 (612)
	2,443	966		88	659	4,157	▲ 337	3,820
ファイン事業	180 (▲ 93)			0 (▲ 4)		180 (▲ 98)	▲ 23 (4)	156 (▲ 94)
	274			4		279	▲ 28	251
物流事業	288 (▲ 0)					288 (▲ 0)	▲ 135 (▲ 2)	152 (▲ 2)
	288					288	▲ 133	154
その他事業	259 (12)			1 (0)		260 (13)	▲ 58 (17)	202 (30)
	246			1		247	▲ 75	171
仮計	6,036 (407)	1,727 (154)	359 (12)	163 (▲ 1)	1,567 (150)	9,854 (723)		
	5,629	1,572	346	164	1,417	9,131		
連結調整	▲ 1,009 (▲ 73)	▲ 184 (▲ 35)	▲ 216 (9)	▲ 114 (3)	▲ 17 (3)		▲ 1,540 (▲ 91)	
	▲ 935	▲ 148	▲ 226	▲ 117	▲ 21		▲ 1,449	
連結 計	5,027 (333)	1,543 (119)	143 (22)	49 (2)	1,550 (153)			8,313 (631)
	4,693	1,424	120	47	1,396			7,681

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。
※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等を含む。

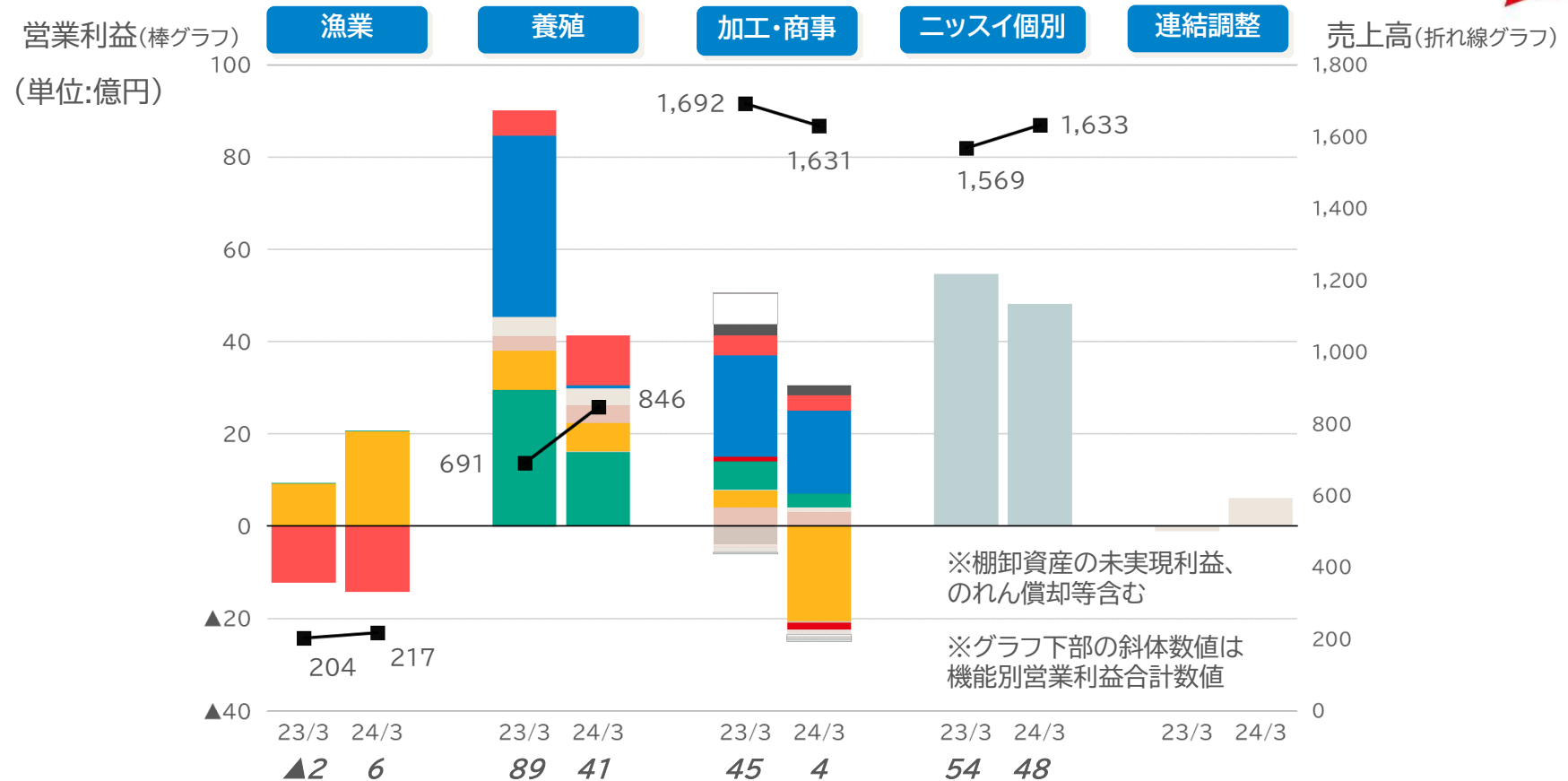
2024年3月期 セグメントマトリックス 営業利益(前期比)

(単位:億円)

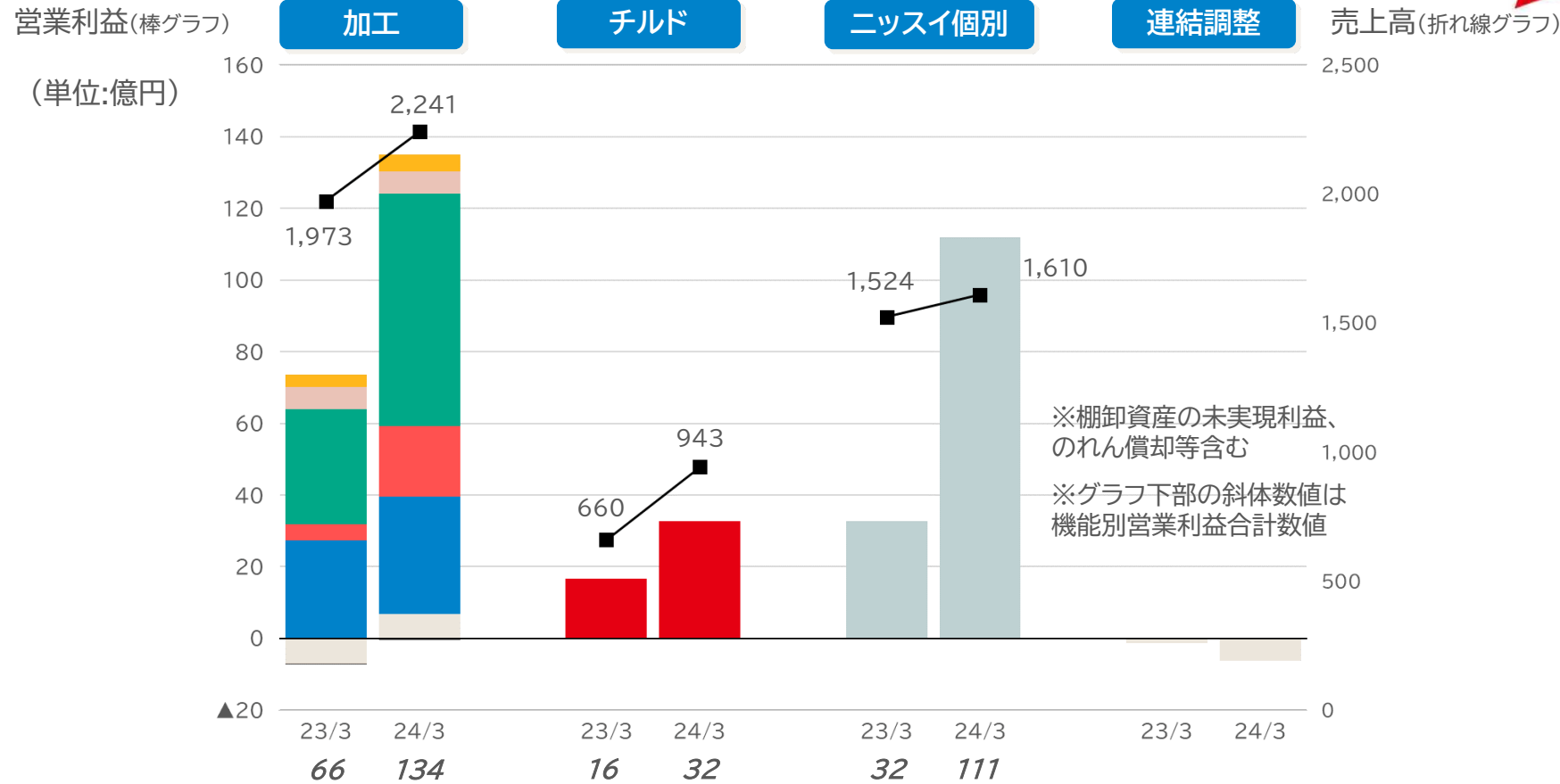
	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結 計	営業利益率(%)
水産事業	108 (▲8)	▲11 (▲28)	▲15 (▲43)	1 (▲0)	17 (▲4)		100 (▲85)	6 (7)	106 (▲78)	3.2 (▲2.5)
	117	17	27	2	21		186	▲1	185	5.7
食品事業	151 (108)	52 (20)		6 (0)	69 (33)		279 (163)	▲6 (▲4)	272 (158)	6.2 (3.2)
	42	31		5	35		115	▲1	114	3.0
ファイン 事業	▲0 (▲17)			▲0 (▲0)			▲0 (▲18)	▲0 (▲0)	▲1 (▲18)	▲1.1 (▲8.0)
	16			0			17	0	17	6.9
物流事業	15 (▲0)						15 (▲0)	0 (▲0)	15 (▲0)	10.1 (▲0.2)
	15						15	0	15	10.3
その他 事業	7 (▲0)			0 (▲0)			7 (▲1)	0 (1)	7 (0)	3.9 (▲0.6)
	8			0			8	▲0	7	4.4
全社経費						▲105 (▲8)	▲105 (▲8)	0 (▲0)	▲104 (▲8)	
						▲96	▲96	0	▲95	
仮計	281 (81)	41 (▲8)	▲15 (▲43)	7 (▲1)	86 (29)	▲105 (▲8)	296 (49)			
	200	49	27	9	56	▲96	247			
連結調整	▲2 (▲3)	1 (2)	6 (5)	0 (1)	▲6 (▲4)	0 (0)		▲0 (2)		
	0	▲1	0	▲0	▲1	0		▲2		
連結 計	279 (78)	42 (▲5)	▲9 (▲37)	8 (▲0)	80 (25)	▲104 (▲8)			296 (51)	3.6 (0.4)
	200	48	28	8	55	▲96			244	3.2

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。
※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等を含む。

2024年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)



2024年3月期 食品事業 売上高・営業利益(前期比)





まだ見ぬ、食の力を。